

聖徒の道

3
1994



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1994年3月号



表紙——500万人以上の人口を擁するイタリアのローマ。この巨大都市での交通は容易ではない。10代の末日聖徒たちは土曜日の午後セミナーに出席するのに、家族に頼っている。(本誌「ローマに敷かれた正しい道」p. 10参照。写真撮影/アルフレッド・W・ウォーカー, スコット・ナドセン)

こどものページ——はこぶねに入るじゅんぴをするノアと動物たち。絵/ドン・ウェラー

一般

大管長会メッセージ——最も価値あること 第一副管長ゴードン・B・ヒンクレー	2
反対のもの 喜びと快適な生活 ブルース・C・ハイフェン, マリー・ハイフェン	14
家庭訪問教師として過ごした30年 イルマ・デ・マケナ	20
スペンサー・W・キンボール——不屈の人 ペトリーア・ケリー	26
出エジプト——その試練と証と予型の考察 S・ケント・ブラウン	34

青少年

ローマに敷かれた正しい道 ディエーン・ウォーカー	10
天父からの祝福 アマンダ・ミーンズ	33
あなたが教える番です シェーン・パーカー	44
ロシアの子供たちとのきずな モーリーン・クレイトン	46

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——聖霊の賜	25

こども

山の中でのけいけんさ キャロル・アレイ・ウェルシュ	2
歌 すくいぬしのあい ラルフ・ロジャーズ Jr., K・ニューエル・デーリー, ローリー・ハフマン	6
分かち合いの時間—— すくいぬの計画はわたしにへいあんをもたらしてくれます ジュディ・エドワーズ	8
せかいのおともだち	10
天父とのお話 ジル・キャンベル	12
自分のあかし グレン・L・ベイス長老	14
おもちゃばこ	16

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：エズラ・タフト・ロビンソン、ゴードン・B・ヒンクレ、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バック、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

編集長：レックス・D・ピネガー、ジョー・J・クリステンセン
顧問：ウィリアム・R・ブラッドフォード、ベンサー・J・コンティ、ジョン・H・グローバーク

教科課程管理部責任者
実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

国際機関誌
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー

工程管理：メアリー・アン・マーティン
アートディレクター：スコット・パン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン、ジェニファー・ダットワイラー、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー
予約購読スタッフ
購読管理ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

配送部長：ジョイス・ハンセン
マーケティング部長：ケント・H・ソレンセン
聖徒の道 1994年3月号第38巻第3号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
株式会社 精興社/クロスロード
印刷所
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円、大番号 350円

Copyright © 1994 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1991年10月 翻訳承認—1991年10月 原題—International Magazines March 1994. Japanese. 94983300
●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙、でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

あかし
絵が証してくれました

夫と私はフィンランド人として初めての夫婦宣教師に召され、エストニアで伝道しています。この地方の会員たちを訪れ福音を説くためには、ときどきバスで長い道のりを行かねばなりません。そのため、よくフィンランド語版の機関誌「ヴァルケウス」(「光」の意)を読みながらバスに乗って行きます。その雑誌のローカルページにときどき、エストニア語の記事が掲載されます。

イエス・キリストの美しい絵がたくさん掲載された1993年4月号には特に感謝しています。ある日、私が例によってバスに乗りながらその美しい絵の特集に見入っていると隣に中年の婦人が腰を下ろしました。彼女は私の見ている数々の絵に目をやりながら、そのような雑誌はどこに行けば手に入るのか、尋ねてきました。エストニア地方で発売されている雑誌の印刷はこんなにきれいに仕上がっていないのだそうです。それがこの女性にイエス・キリストについて話すきっかけとなったのです。

絵を眺めながら彼女はつぶやきました。「私たちエストニア人にもこんな雑誌が必要だわ。」この時ローカルページに掲載されたマリーナ・ソアリッキーの記事が目に入りました。神権の権威についてエストニア語で記した記事です。そこで私は隣の女性のために声に出して読んであげました。読んでいる途中、彼女は「それは真実ね」と言いました。私たちは聖霊を身近に感じ、喜びに満たされました。こうして私は、彼女を教会の集会に招くことができたのです。

エストニア、タリン
マイラ・シルベンノイネン

福音を分かち合う

改宗してからずっと「リアホナ」(スペイン語版)は私にとって靈感の源となっています。ですから父が自分の職場の同僚たちにこのリアホナを配り始めた時には内心穏やかではありませんでした。この機関誌を将来何かに役

立てるため、保存しておきたかったからです。

私のこうした気持ちはある日、ひとりの男性が訪ねて来た時にすっかり変わってしまいました。彼の話によれば、父が数冊の「リアホナ」を手渡し、福音について語ってくれたのだそうです。現在、父は当時とは別の場所に勤務しています。この人はその後、父にももらった「リアホナ」を何度も何度も読み返し、その中に書かれている事柄について深く考えたそうです。しばらくして、宣教師が彼の家を訪問した時、彼はすでに天父によって備えられ、真理に目覚め主と誓約を交わせる状態になっていました。教会員となった彼は、リアホナをくれた父に感謝したくて、早速訪ねて来てくれたのでした。

この経験を通して私は主に仕える備えのできた人に真理を伝えるため、主はあらゆる方法を用いられることがわかるようになりました。

グアテマラ、メキシカル
ジェシー・ロメオ・アキレ・ダビラ

中国からやって来て

私は最近、中国本土からサイパンに移住して来た無神論者です。ある日偶然、中国版の教会機関誌「ジョン・トゥ・チャー・ジョン」(「聖徒の声」の意)を見つけました。好奇心からその本を読み終えた私は、その内容に強く心を動かされました。それは私に生きる勇気や、困難に立ち向かう力をもたらし、モルモン教会と神に対する関心を呼び起こしてくれました。これまで全能の神がこの世に存在することを信じられなかった私ですが、今は、宗教についてもっと知識を深めたいと望んでいます。

サイパンにひとりやって来て、しばしば孤独感にさいなまれたり、自分を見失ったりすることがあります。そのような気持ちを克服する勇気を与えてくれたのが、この機関誌なのです。「ジョン・トゥ・チャー・ジョン」が今後にもさらに充実した機関誌となるよう心から願っています。

サイパン
レイモン
季 瑞明



最も価値あること

第一副管長

ゴードン・B・ヒンクレー

予言者ジョセフ・スミスを通して、「自分にできる最も大切なこと」は何かを尋ねた人々に、主が繰り返し与えられた偉大な教えは、私にとって本当にすばらしいものであり、この気持ちは決して変わることがありません。

主はこう言われました。「さて見よ、われ今^{なんじ}汝に告ぐ、すなわち汝にとりて最も価値あることは、汝今の代の人々に悔い改めを^の宣べて人々をわれに導き、^{もつ}以て彼らと共に父の^{みくに}御国に休まんことなり。」(教義と聖約15：6)

聖典には、固い決意と献身によって主のみ言葉をほかの人々に伝えたすばらしい男女の例が数多く載せられています。しかしそれらの感動的な記録のほか、神の王国の建設に^{きさ}すべてを捧げた末日聖徒の生活の中からも、そのような物語や体験を無尽蔵に見いだすことができます。

ダン・ジョーンズは19世紀におけるその一例です。私は彼の物語から、これまで変わることなく感銘を受けてきました。ウェールズ出身のダン・ジョーンズは、予言者の殉教の前夜、ジョセフ・スミスと同じ場所にいた人物です。彼の生涯は手短かに述べるだけでも価値があります。

ダン・ジョーンズは1810年8月4日に、ウェールズのプリントシャー州ハルキンで生まれました。彼は17歳で船乗りになり、船や船員の仕事について学び、激しい風で吹きつけられる波しぶきの刺すような痛み、あらしの海の恐ろしい



上——予言者ジョセフ・スミスは、カーセージの牢獄で殉教する前夜、ダン・ジョーンズにこう約束しました。「あなたはいつかウェールズの地に行き、死ぬ前に、自分に託された使命を果たすことでしょう。」左——ダン・ジョーンズは、宣教師としてウェールズで大胆に福音を宣べ伝えました。

ほどの揺れなどを身をもって味わいました。1840年、アメリカへ移住したジョーンズは、小さな船を手に入れ、船長となってミシシッピ川を行き来するようになりました。彼はおもに、ニューオーリンズからセントルイスの間で乗客を運びました。後にこの船は難破してしまいます。しかし1842年、この背丈の低いがっしりした体格のウェールズ人は、31歳にして共同で1隻の船を所有し、その半分の権利を得ました。メイド・オブ・アイオワ号というその船は300人の乗客を運べる大きさでした。

船の仕事をしているうちに、ダン・ジョーンズはモルモン教徒のことを知るようになりました。彼らはミズーリ州を追われて、イリノイ州クインシーに一時避難しましたが、その後、川が大きく湾曲し、半島のように突き出した形の場所に「美しい町、ノーヴー」と呼ばれる町を建設していました。ダン・ジョーンズは新聞や雑誌に載っていた反モルモンの記事をいくつか読んでいたようです。これらの記事に彼は好奇心をそそられ、モルモン教徒についてもっと知りたいと思うようになりました。そして彼はモルモン教徒に会い、その教えを学び、真理を受け入れたのです。1843年1月、彼はミシシッピ川の冷たい流れの中でバプテスマを受けました。

4月になって、彼はミシシッピ川をさかのぼって船いっばいのイギリス人改宗者をノーヴーまで運び、そこでジョセフ・スミスに会いました。最初の出会いでふたりは互いに敬い、認め合うようになりました。

翌年の6月に、ジョセフ・スミスは兄のハイラムとともに逮捕され、カーセージの牢獄^{ろく}に移されました。その時ふたりに伴った人々の中にダン・ジョーンズもいて、彼は一緒に牢^{ろく}に入れられました。カーセージでの最後の夜、ほかの人々が寝入った後で、ジョセフ・スミスがダン・ジョーンズに小声で話しかけました。「死ぬのが怖くはありませんか。」ダン・ジョーンズの答えはこうでした。「私が死を怖れたことがあると思いますか。私は神のみ業に働いて、死を恐ろしいと思ったことはありません。」

これに対して、ジョセフは次のように答えました。これは彼が語った最後の予言の言葉とされています。

「あなたはいつかウェールズの地に行き、死ぬ前に、自分に託された使命を果たすことでしょう。」¹

翌日、予言者はイリノイ州クインシーにいるオービル・H・ブラウニングへ届けてほしいと、1通の手紙をジョーンズ兄弟に託しました。それは来るべき裁判でジ

ョセフとハイラムの代理人となるようブラウニング氏に求める手紙でした。ジョーンズ兄弟は牢を出て、暴徒が取り巻く中を歩いていく時に、命を奪われる危険にさらされていました。馬に乗って走り去ろうとした時、何発かの弾丸が彼の体をかすめましたが、さいわい1発も当たりませんでした。彼は急いで逃げ去ろうとして、方角を見失ってしまいました。それがさいわいして、自分を殺そうとする暴徒を避けることができました。彼はやがてクインシーに着き、そこで、1844年6月27日のあのうっとうしい午後にジョセフとハイラムが射殺されたことを知らされたのです。ジョセフ・スミスへの彼の愛は決して消えることはありませんでした。そしてジョセフ・スミスがその命を捧げたみ業への忠誠心においても断じてひるむことはありませんでした。

予言者の言葉は、それから数か月後、ダン・ジョーンズがウェールズでの伝道に召された時に成就しました。ウェールズへはジェーン夫人も同伴しました。ふたりはウィルフォード・ウッドラフらとともにイギリスへ向けて出発しました。ジョーンズ長老はウェールズ北部で働くように割り当てられました。彼にはウェールズ語と英語の両方を話せるという非常に大きな強みがありましたが、その地域の人々の心を動かすという点ではあまり成果を上げることができませんでした。一方、ウェールズ語を話せないウィリアム・ヘンショー長老は南部の方でかなりの成功を収めていました。

1年後にヘンショー兄弟が解任されると、ジョーンズ長老はウェールズ全域を管理する責任に召されました。彼はウェールズ南東部のマーサー・ティドフィルを本拠に、ほんのひと握りの宣教師とともに働きましたが、すばらしい収穫を得ることができました。1845年から1848年の間に、約3,600人がバプテスマを受けたのです。人口比で言えば、当時のウェールズの278人にひとりがバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となったのです。

教会に敵対する人々は、新聞や出版物を利用して、モルモンの宣教師たちを攻撃しました。しかしジョーンズ長老の言い分を載せる新聞などはありませんでした。そこで彼は、自前の出版物で応じることにしました。プロテスタントの牧師で印刷機を持っている実の兄ジョン・ジョーンズの協力を得たのです。ジョンは週日にダンの書いたものを印刷し、日曜日には説教壇からダンを非難したとされています。



ダン・ジョーンズは、ほんのひと握りの宣教師とともに働きましたが、すばらしい収穫を得ることができました。1845年から1848年の間に、当時のウェールズのおよそ278人にひとりがバプテスマを受けて、教会の会員となったのです。

ダン・ジョーンズの著作は英語以外の言葉で出されたモルモンの定期行物としては最初のもので、² 1846年に発刊されたその出版物には「ヨベルの年の予言者」という表題が付けられました。

彼の最初の記事を読むと、その意気込みの強さを感じることができます。

「読者諸氏に告ぐ。我らの代の新しき時代の幕開けに目を向けよ。それは過去のいかなる時代にもまして驚くべき時代であり、すばらしい備えと最高の偉業がなされ、最も輝かしい影響が及ぼされる時である。天よりの黄金の鍵が、すべての宝、すべての奥義の扉を開き、人類の中に見られるすべての誤ちを取り除くために、再び我らに託された。久しく閉ざされていた永遠の扉はすでに開かれ、隠されていた真珠と古今の宝が、神の時代におけると同様に、人々の目の前に再び輝き始めている。地の民よ喜べ。ウェールズのすべての人は、最後のラッパの音とともに響く大いなる喜びのよき知らせに耳を傾け

よ。」³

ダン・ジョーンズの伝道の方法は興味深いものです。根本的にはある種の論争であり、今の時代に適した方法ではありませんが、当時、彼はこの方法をうまく使ったのです。彼はだれをも恐れず、非常に大胆に行動しました。彼のその方法は、次のようなものだったといえます。「彼は、町のすべての人を改宗するために自分が出向いて行くという宣伝を、数週間前からそこで行なう方法をよく取った。そして、市長や、市議会、聖職者、警察などに自分の意向を伝えておき、地元の教会員に市内全域にちらしを配布してもらう。多くの場合、彼が駅に着くと、市のすべての役人、興奮した多くの市民が会いに来た。」⁴

ほかの教会の聖職者たちは彼を激しく非難しました。説教壇から、そして新聞などを用いて酷評したのです。彼らの敵意について、ダン・ジョーンズはこう書いています。「アメリカの哀れなジョセフ兄弟について語られた話の多くが、ここではジョーンズ船長の身の上にとじつけられている。そしてあの小さな男〔ジョーンズ自身〕のことを知らない人たちが、彼は『この国に下されたのろい』だと非難しているとの話をよく耳にする。」⁵

あちこちで人々は激高の声を上げました。しかしダン・ジョーンズはそれにひるむどころか、論争をひとつの好機として利用しました。彼がそのようにして注意を喚起したために、人々はモルモン教徒の福音が真実か否かの判断を迫られました。ジョーンズ長老個人をはじめ、モルモン教徒全体への風当たりが激しくなる中で、教会への改宗者の数はさらに増え続けました。ジョーンズ長老は新聞で中傷され、街頭でののしられ、生命の危険にもさらされました。

そのような状況の中で、彼は次のように書いています。「私はこの戦いで得たものに喜びを感じている。私は同胞を霊的束縛から解き放つ戦いをするためにこの地へ来たのである。主が多くの人々の足かせを打ち砕いておられることに……感謝している。自由のすばらしさを味わった人々は『真理に固くつけ』と言うであろう。」⁶

それはまた、聖徒たちが合衆国西部のロッキー山脈に集合する時期でもありました。ノーヴーはすでに放棄され、神聖なノーヴー神殿は汚され、火を放たれていました。聖徒たちはミシシッピ川に近い住み慣れた地を追われ、苦勞してアイオワ州を横切り、ミズーリ川へ向けて進みました。そして1846年に、彼らはウインター・クオ

ーターズの町を築いたのです。翌年には第一隊がエルクホーン川とプラット川伝いに現在のネブラスカ州の地域を縫うようにして進み、ワイオミングの高原に達し、そこからグレートソルトレーク溪谷へ入りました。「シオンへ来れ」が招きの言葉でした。

改宗者は総じて非常に貧しい状態にありました。しかし彼らは大きな群れに加わるために節約し、金をためるように勧められていました。ウェールズをたった最初のグループは300人余りの聖徒で、彼らは初めスウォンジーに集まり、そこから船でリバプールへ行きました。リバプールではこのグループをふたつに分けなければならなくなり、249人がブエナビスタ号に、そして77人が後続のハートレー号に乗船することになりました。ジョーンズ長老はブエナビスタ号の人々と行動をともしました。この時彼は多くの心配な問題を抱えていましたが、その心配を一層大きくしたのが、妻のジェーンが出航直前になって娘のクラウディアを出産したことでした。最初、彼女はイギリスに残り、ジョーンズ長老が後で迎えに来ることに決めましたが、夫がリバプールを出航してから後にジェーンは考えを変え、クラウディアとともに大西洋を渡りました。そして、アイオワ州のカウンシルブラッフスで夫に追いついたのです。

当時はリバプールからニューオーリンズまで船で7週間かかりました。今の私たちには、当時の旅のつらさは想像もつきません。250人もの人がさほど大きくもない船にひしめき合い、それだけの長い時間を過ごさなければなりません。旅の全行程にじゅうぶんな食糧を備えておく必要がありました。船会社は法律で基本的な食糧の積載を義務づけられていましたが、人々は食事を充実させるためにほかの物を持って来るように勧められていました。

ブエナビスタ号の乗客はニューオーリンズで、彼らをセントルイスまで運ぶ川船に乗り替えさせられました。大西洋での長い航海中、彼らの中で命を落とした人の数は最小限でしたが、この川船に移ってからコレラが発生してしまいました。ニューオーリンズとセントルイスの間、またさらに船を替えてミズーリ川をカウンシルブラッフスへ行くまでの間に、67人もの人が命を落としました。昨日まではまったく元気そうだった人が、次の日には亡くなってしまふことがよくありました。船は死者を葬るために、途中何度も停泊することがありました。

カウンシルブラッフスでは、ウェールズ語を話す人々

のための支部がアメリカで初めて組織されました。ここで、彼らは牛や荷車を手に入れました。しかし彼らの多くは鋤夫や職人で、牛の扱い方についての知識はなく、道とは名ばかりのわだちを踏みながら重い荷車を進めていく方法も知りませんでした。彼らは、牛を荷車につないだり、外したりする方法を学び、足取りの重い牛の扱い方や牛が足を痛めたときの手当ての仕方も学ばなければなりません。一行は1849年7月13日にカウンシルブラッフスを出発し、108日をかけてソルトレーク溪谷まで旅を続けました。

10月18日、ワイオミングの高地でひどい吹雪に襲われ、牛が60頭も死んでしまいました。そして10月26日によやくソルトレーク溪谷に到着したのです。リバプールからソルトレークシティまで8カ月の旅でした。隊の5分の1の人は途中コレラで命を落としました。また、少数ですが途中で証が衰えてしまった人も含めて、隊から離れていった人々もいました。

今なら、昼ごろにロンドンを出れば、その日の夕方までにはソルトレークシティに到着することができます。

ユタでダン・ジョーンズはマントイに腰を落ち着け、1851年にはそこで最初の市長に選ばれました。しかしその1年後には、ウェールズでの2度目の伝道に召されました。彼はこの時も、何のためらいもなく召しを受け入れました。数人の人とともに、彼は東へ向けて長い旅を始めました。ソルトレークシティから約130キロの所で、彼は西へ進むウェールズの聖徒の団に会いました。彼らはジョーンズ長老の最初の伝道の時にバプテスマを受けた人々で、自分たちの愛してやまない指導者に巡り会えて、喜びを隠すことができませんでした。聖徒の団は西の溪谷に向かう途中であり、一方ジョーンズ長老はウェールズの溪谷に向かう途中での再会でした。彼らは歌い、泣き、腹藏なく語り合いました。そして楽しい1日を過ごしてから別れたのです。別れ際に、ジョーンズ長老は教会の管理監督エドワード・ハンターにあてた手紙をウィリアム・モーガンに渡しました。その手紙には、ダン・ジョーダンというすばらしい人物の心の思いとウェールズの兄弟姉妹たちへの愛がよく表わられています。

「敬愛するハンター監督。私の同胞がおおぜい、第13隊に加わりやって来ました。彼らの状況についてはよくわかりませんが、おそらく金銭的にも食糧面でも乏しいものと思われます。もしそうであれば、彼らが到着した



ILLUSTRATED BY CLARK KELLEY PRICE

ウェールズでの2度目の伝道に赴く途中、ソルトレークシティから約130キロの所で、ダン・ジョーンズはソルトレーク渓谷に向かうウェールズの聖徒の団に会いました。彼らは自分たちの愛してやまない指導者に巡り会えて、喜びを隠すことができませんでした。彼らは歌い、泣き、腹藏なく語り合いました。

折に、[モーガン兄弟の手を通して]必要な物をお世話いただければ幸いです。その弁済は私がサンペテ渓谷のマンタイに戻った時にさせていただきます。」

ミレニアルスターの論説で、ダン・ジョーンズは「ウェールズ人の最大の恩人」と評されています。

ウェールズに戻ったジョーンズ長老は再び伝道に全精力を注ぎました。彼の2度目の伝道期間中に、約2,000人の改宗者が教会に加わりました。すばらしい成果でした。

このころまでに教会は永代移住基金制度を定めていました。この融資制度と大西洋を渡るために教会がチャーターした船のおかげで、教会員はひとり45ドルあればバブルからソルトレークシティまで旅することができました。その金額を準備するのでも決して簡単なことではありませんでしたが、ほとんどの改宗者が故国を離れてシオンへ行くことができたのは、この基金があったからにほかならないのです。

ジョーンズ長老は自分の体験を基に、シオンへ行きたい人々のために詳細な指示を記したパンフレットを作り

ました。私はその最初の段落に書かれている次の勧告が好きです。

「まず、支払わなければならない負債はすべて弁済しなさい。あるいは、相手の好意によってその負債を免除してもらうか、旅が終わるまで支払いを待ってもらえるようにしなさい。私たちはそのいずれもできない人に対しては、シオンへの移住を勧めない。」

彼はこの点を強調しました。正直と誠実がこの人の真骨頂でした。

1856年に、彼は多くのウェールズの聖徒とともに再び海を渡りました。ウェールズの聖徒たちはあの運命の年の手車隊による移住計画に加わりました。一行は大きな苦しみもなく、ソルトレーク渓谷までの旅をすることができました。しかし彼らの後に続いたウイリー隊とマーティン隊は吹雪に遭遇して大きな不幸に見舞われたのです。

ジョーンズ長老は先発したこれらの手車隊には加わらず、帰還する宣教師のグループと一緒に西へ向かいましたが、手車隊よりも早いペースで旅を進めることができ

ダン・ジョーンズは、おおぜいのウェールズの聖徒たちをシオンに導きました。聖徒たちは、敬愛の意を込めて、彼をジョーンズ船長と呼びました。彼らはジョーンズの証を土台にそれぞれの証を築いていったのです。

ました。ワイオミングであらしに遭い身動きできずにいたウイリー隊とマーティン隊を発見し、ブリガム・ヤングに急を知らせたのはこのグループでした。ブリガム・ヤングはすぐに救援隊を送り、彼らを助け出しました。

ジョーンズ兄弟はこのころ、召しに伴う激しい活動と極度の疲労によって健康を害し、病に苦しんでいました。この時期を境に、彼の肉体は急速に衰え始めました。1861年2月24日には妻のジェーンが亡くなりました。そして、それから1年もたたない1862年1月3日には、彼自身も結核で不帰の客となったのです。51年の生涯でした。

ダン・ジョーンズはジョセフ・スミス、ブリガム・ヤングの友として、予言者とともに歩きました。予言者たちが説いた真理への忠誠心はひるむことはありませんでした。彼の献身には非の打ちどころがなく、福音を人々に説くその熱意は並外れていました。1844年に予言者とハイラムを殺した人々の目を正視した彼は、後にウェールズ語で、その悲劇を伝える書を著わしました。イエス・キリストの回復された福音を証する彼の言葉は、英語であれウェールズ語であれ、人々を強く説得する、力にあふれたものでした。

彼は回復された福音の業を推し進めていく信仰にどのような犠牲が必要とされるかを理解していました。そしてそのためには自分の命を捧げることもいとわない人物でした。事実、彼はそのとおりの生涯を送ったのです。大いなる献身、神の教えを語り、書くことへの不変の情熱、海と草原を行き来した長く単調な旅、これらはすべて犠牲を要するものでした。しかし彼は自分の命を捧げた大義に対して骨惜しみをすることは一度もありませんでした。

ウェールズの聖徒たちは、敬愛の意を込めて、彼をジョーンズ船長と呼びました。彼らはジョーンズ船長の言葉に耳を傾け、彼に頼り、その勧告に従いました。そして彼の証を受け入れ、それを土台にそれぞれの証を築いていったのです。

現在この教会には、ジョーンズ兄弟とその同僚たちから教えを受け、バプテスマに導かれた人々の子孫が数多くいます。改宗者の多さでいえば、彼は間違いなく十指のうちに数えられる、教会の歴史の中でも非常に有能な宣教師でした。彼は人々に義を説き、信仰を築くことに、自分の命を捧げました。

私は、ダン・ジョーンズが偉大な働きをしたことを証

いたします。また、私たちが主のみ言葉を信じ、人々に福音を分かち合うなら後々の人々の生活に永続する結果をもたらせることを証します。主はこう言われました。「さて見よ、われ今汝に告ぐ、すなわち汝にとりて最も価値あることは、汝今の代の人々に悔い改めを宣べて人人をわれに導き、以て彼らと共に父の御国に休まんことなり。」(教義と聖約15:6)

皆さんがそれぞれに自分の生活、環境、状態を省み、祈りをもって精力的に、また熱心に、家族、隣人、友人、知人を主のみもとへ導く業に就かれることを心から望んでいます。□

話し合いのポイント

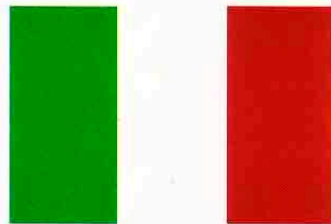
1. 主は繰り返しこう告げておいでになる。「汝にとりて最も価値あることは、汝今の代の人々に悔い改めを宣べ……んことなり。」(教義と聖約15:6)
2. ウェールズ出身の19世紀の教会員、ダン・ジョーンズは、神の王国の建設にすべてを捧げた気高い模範のひとりである。
3. ジョーンズ兄弟は、新聞や雑誌で中傷されたり、命を脅かされたりもした。しかし彼は、同胞であるウェールズ人に福音を説くことに尽力した。そして教会に加入して以来、その生涯を捧げたみ業のために惜しみなく働いた。
4. 人々を主のみもとに導くために力を尽くすならば、私達も偉大な働きをなし、人々の生活に永続する結果をもたらすことができる。

注

1. レックス・リロイ・クリステンセン「ダン・ジョーンズ船長の生涯と業績」(ユタ州立大学における修士論文)p. 17
2. 同上 p. 24
3. ロナルド・D・デニス「ヨベルの年の予言者」p. 1
4. 「ダン・ジョーンズ船長の生涯と業績」pp. 39-40
5. 同上 p. 27
6. 同上
7. ロナルド・D・デニス「シオンの召し」p. 77の中での引用文
8. 「ダン・ジョーンズ船長の生涯と業績」p. 44
9. ロナルド・D・デニス「シオンへの導き手」p. 1



ローマに敷かれた 正しい道



ディエーン・ウォーカー

伝説に名高い7つの丘一带に広がるこの偉大な都市、イタリアのローマは、2,500年を越える歴史と数数の伝説を秘め、いまや500万以上の人口を擁する近代的な大都市へと姿を変えました。この都市のいくつかの地区を通り抜ける道は複雑な迷路のように狭いため、しばしば交通渋滞を起こします。一方、市外の高速度路では、目まぐるしいスピードで車が走り抜けていきます。タクシーやバス、電車などの交通機関も、この大都市を移動する人々の混雑に拍車をかけるだけです。

距離の遠近にかかわらず移動するとなると困難が伴うのがローマなのです。これが土曜日の午後、10代の末日聖徒にとっては特に困った問題になります。

なぜ土曜日の午後が問題なのでしょう。この日は、ローマのノメンタノ支部に集うアドリアナ・パグナニ(15歳)、マウロ・サレルノ(16歳)、アリアンナ・カンザチ(15歳)、サラ・ナルディ(17歳)、ジオルジア・ロマノ(14歳)といった生徒たちがセミナーに出席する日だからです。ローマのほかの3つの支部でも同じ曜日に生徒がセミナリ

ーに出席しています。この生徒たちは1週間のうちの6日間は学校へ通いますが、その中でも土曜日の放課後を楽しみにしています。セミナーで末日聖徒の友達に会えるからです。どの生徒もそれぞれかなりの時間をかけて集会所へやって来ます。公共の交通機関を利用すると2時間半もかかる生徒がいて、そういう生徒は、親に車で送ってもらうしかありません。アドリアナ・パグナニ姉妹は、こう説明します。「イタリアでは、18歳にならな



ローマにある数多くの古代の記念碑の中で、末日聖徒のセミナリーの生徒たちは福音に基づく奉仕を实践し、献身的な生活を築いている。
下——左からアドリアナ・バグナニ、マウロ・サレルノ、アリアンナ・カンザチ。上——ローマの名所、コロセウム。



土曜日の午後、ローマの若い末日聖徒たちは街の至る所からやって来て、セミナーを楽しみます。右——クリスティナ・スタルタリ、フランコ・サレルノ(セミナー教師)、アレサンドラ・フィリロ。右下——左からジオルジア・ロマノ、アレサンドラ・デンテイ。

いと自動車の運転免許が取れません。つまり、両親に教会まで送ってもらえない場合にはセミナーに参加できない、ということになるんです。」

伝道の機会

マウロ・サレルノ兄弟の場合は、もっと楽にセミナーに行けます。ローマの郊外に住んでいて、教会まで行くのに20分ぐらいはかかるのですが、自分の父親がセミナーの教師なのです。マウロは最近経験したことを話してくれました。その経験を通して、マウロは、やはり頑張ってセミナーに出席したかいたがあった、と思いました。「学校の歴史の授業で、ユダヤ人とイエス・キリストの生涯というテーマについて、口頭で発表するよう割り当てを受けました。」マウロはその時のことを思い返します。「ちょうどそのころ、セミナーで教義と聖約を学んでいるところだったので、自分の発表に少し補足しました。自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であり、セミナーを受けていることを伝えたのです。それから教会のことを少し話しました。」彼はにこにこして次のように付け加えました。「そのテストで私は8点を取りました。最高点数9点のうちの8点ですよ！」

自分の宗教について話をするには、勇気が必要でした。自分の学校で、末日聖徒はマウロひとりだったからです。

実際、ノメンタノ支部のセミナーに集う生徒たちは、皆それぞれが通う学校で唯一の教会員です。どの生徒も通っている学校は違いますが、各学校で機会あるたびに教会員ではない友達に福音を分かち合っています。アリアンナ・カンザチ姉妹は生まれてからずっと教会員ですが、学校の友達はいずれもカトリック教会の会員です。「自分の信じていることをそのまま実践していれば、友達も私の宗教がどんなものか少し理解してくれると思います」と彼女は語っています。

「社交的な活動に参加するときには、学校の友達と一緒にことが多いんです」とアドリアナ・パグナニ姉妹は語ります。「いつもというわけではありませんが、友達から自分の信じていることについて聞かれることがあります。そんなときには、セミナーや教会、あるいは若い女性の活動に連れて行ったりします。そうすると少し宣教師になったような気持ちになるんです。」

「よく聞かれるのは、私たちの教会と彼らの教会はどこが違うのかという質問です」とマウロは話してくれました。

「いつも友達には、私たちの教会には神と直接に交わるのでできる予言者がいて、回復された神権が与えられていると伝えます。」しばらく考えて、次のようにマウロは付け足しました。「いつも友達は『神権って何?』と聞いてきます。簡単に『神権というのは

地上における神の力だよ』と説明することになっているんです。」

ローマの若い末日聖徒たちは、福音を広めようという一人一人の努力に加え、支部の若い女性やスカウトの組織とともに奉仕活動にも参加しています。最近ですが、若い男性がグループで自分たちの住む地区にあるすべての図書館を訪れ、「回復された真理」を置いてもらいました。一方、若い女性は、2歳から12歳までの子供たちのいる孤児院で奉仕活動をする計画を立てています。「こんな活動が日常レベルで行なわれるように願っています」とアドリアナ・パグナニ姉妹は語っています。

周囲の人々への模範

ローマの4つの支部に集う10代の末日聖徒は、住居がお互いにかなり遠く離れていて、交通が大きな問題となっています。したがって、集会や活動と一緒に参加するのは容易ではありません。ローマ地区で活発な若い女性は、ローマ市内の4つの支部、外国人支部、そして地方にある5つの支部を全部合わせても21人にしかありません。地方部の若い女性会長、ロレンザ・ペルティカロリ姉妹は、若い人々がイタリアの教会員として多くのチャレンジに直面していることを認めています。「ただし」とロレンザは付け加えます。「協力的な家族や友人の助けの得られ



る人は、教会員としての問題は比較的少ないのです。大きなチャレンジを受けるのは、この種の助けがない若人です。」

福音に従い、教会員でない多くの人人により模範を示すには、大変な努力が必要であることをローマのセミナーの生徒たちは知っています。トゥスコラノ支部に集う15歳のクリスティナ・スタルタリ姉妹は、こう語っています。「自分自身ですべきでないとかわかっていこうことをするように友達に言われることがときどきありますが、い

つも断わります。友達に気に入られるよりも自分の霊的成長の方が大切だと信じているからです。」この若人たちは、今の努力が、後になって専任宣教師になるための準備になるのを知っています。「伝道に出るのが楽しみです。祭司になったばかりですが、宣教師になる日はすぐに来ます」とマウロは語っています。

確かに、土曜日の午後にセミナーに出席するのは大変かもしれませんし、クラスの人数も少ないかもしれません。しかし人々に模範を示し、福音を勉強するローマの末日聖徒の青少年は、正しい道を歩んでいるのです。よく知られた次のような言葉があります。「す

べての道はローマに通ず。」確かにローマで最も大切な道の何本かは、土曜日の午後に開かれるセミナーに通じていると言えます。□



反対のもの 喜びと快適な生活

ブルース・C・ハイフェン
マリー・ハイフェン

この世の生涯で
私たちは、
義と誘惑、
幸福と悲しみが
混在する必要があることを
教えられます。

我が家では、昔、毛足の長いかわいらしい猫を2匹飼っていました。その2匹の猫は、いわばエデンの園に住んでいるようなものでした。それというのも、私たちがひたすら甘やかして育てたからです。2匹とも、えさにも、ぬくぬくとした生活にも、注がれる愛情にもすっかり満足し切った生活をしていました。反対に、いちばん嫌いで忍耐が必要だと思われたのは、人形用の服を着せられることでした。しかしそれとて、さほど嫌がっているようには見えませんでした。

ある土曜日の朝のことです。その2匹の猫と我が家の子供たちがテレビの前でいかにも気持ちよさそうに居眠りしていました。快適な生活を楽しんでいたのです。私たちがテレビを消して、朝の家事の手伝いの割り当てをすると、8歳になる娘が、まだのどをゴロゴロ鳴らしている猫をうらやましそうに見ながら、こう言ったのです。「お手伝いしたくないなあ。私、猫になりたい。」

私たちも「猫になりたい」と思うときがあります。しかし、私たちの最初の両親は罪のない状態を捨て、エデンの園の「快適な生活」に終止符を打ちました。それは、幸福を得るという栄光に満ちた目的のためでした。(II ニーフアイ 2:25 参照) 暇を持て余す日々を過ごすためではなく、また、永遠にわたってテレビの前であくびをしたり、手足を伸ばしたり、くつろいだりするためでもありませんでした。

対立するものの存在は、この世で生活する際の、最大の関心事です。エデン

私たちの最初の両親と同じように、私たちがこの世に送られたのは、エデンの園のような「快適な生活」をするためではなく、反対のものからさまざまな教えを学び取るためである。この世での多くのとげの中には、想像も及ばない喜びが秘められている。



シオンにも反対のものは存在する。あらゆるものには反対のものがあるからだ。結婚することや子供をもうけることといった、よい結果が約束されている経験であっても同様である。

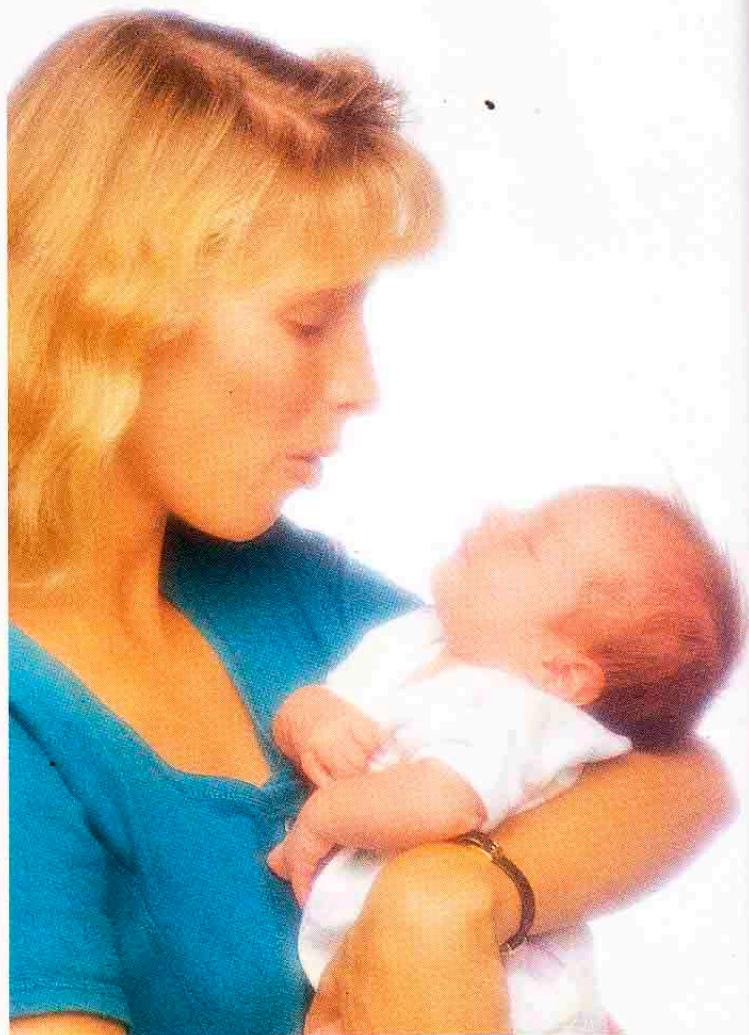
の園で生活していた場合と、現実にこの世で生活を送る場合の、いちばん大きな違いはここにあるのかもしれませんが。それは、未熟で、試しも受けず、経験もしていない状態と、習熟し、鍛えられ、試しを受け、ある程度の分別を持った状態との違いでもあります。このようにこの世での生活は、罪のない状態とは大きく異なります。もし罪のない状態しかなかったとしたら、この世で生活する意義は無に等しくなります。

父リーハイが、「すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬ」(II ニーファイ 2 : 11)と言った時、それは単に、選択と自由意志の大切さについて述べただけでなく、正しい選択をした際にそれが意味のあるものとなるためにも、反対のものの存在も不可欠だと言っていたのです。悲しい経験をしなければ、喜びの価値を正しく認識することはできません。それは、比較するための物差し、つまり価値判断の基準がないことになるからです。そして人生の甘美な出来事さえ、意味も意義も失ってしまうのです。しかし実際、私たちの生活するこの世には義と誘惑、「聖潔〔と〕憐むべき様」など反対のものが共存しています。もしそうでなかったら、「創造の結果は目的のないもの」になってしまうでしょう。(II ニーファイ 2 : 11-12)

予期せぬ試練

反対のことがまったく予期せぬ時点で起きたとき、往々にして私たちは人生で最も苦しいチャレンジにぶつかったと感ずります。ようやくひとつのチャレンジを克服できたと思った途端に新たなチャレンジが訪れたときがそうです。たとえば、伝道に出るときや、神殿で結婚するときなど、ある約束された機会にあずかるための代価として、大きな反対の事柄を克服しなければならないことがよくありますが、やっと問題から解放されたと思ってほっと油断しているときに、別の問題が生じるのです。これは、多くの末日聖徒が経験していることです。ある作家は「涙のないクリスチャンの生活」と書きましたが、そんな生活が本当にあれば、と願ってしまう人もいますことでしょう。

エライザ・R・スノーは、シオンに来るに当たって、



これで世の苦難とは無縁になれると考えて集合して来る人々に向けて、その目を覚まさせるような開拓者の賛美歌を書き残しています。彼女の書いた詩は、「快適な生活」がどこかにあると期待して、新たな試みに取りかかろうとしているすべての人にとっても、今なお当てはまる言葉です。

シオンに集合するとき

わずらいや試練は終わったと考えてはならない。

シオンで待っているものは

慰めと楽しみのみと考えてはならない。

シオンに集合するとき

あらゆるものが清められて、汚れもなく、

不正や偽りは消え去り、

信頼し合って暮らせると考えてはならない。

シオンに集合するとき

いつも賛美と勝利があると考えてはならない。

戦いは終わり、

救いの業のみが行なわれると考えてはならない。

ゆめゆめ考えてはならない。^{かみ}闇の王がねらっているのだから。

十倍もの力を込めて。

あなたが泉に行つて

真理の教えを自由に飲む時を。

(1948年版賛美歌〔英文〕21番)

必要なつながり

シオンにも反対のものは存在します。あらゆるものには反対のものがあるからです。よい結果が約束されているように思われる経験であっても同様です。結婚を例に考えてみましょう。結婚さえできれば、あらゆる問題は解決すると考えている人がかなりいます。ある花嫁は、結婚式当日、母親に向かってこう言ったそうです。「お母さん、私、本当に幸せよ。これであらゆる問題が片付いたわ。」

賢明な母親はこう答えました。「そうね。そして、次の問題の始まりね。」

私たちも、結婚した時や最初の子供を授かった時の経験を、昨日のここのようにはっきりと覚えています。私たちは親になってから初めて、リーハイが言った、もしアダムとイヴがエデンの園にとどまったままで、子供をもうけなかったら、「不幸を知らないから喜びもなく……そのまま罪が無い状態に留ったであろう」(II ニーファイ 2:23) という言葉の意味を理解し始めたのでした。

この聖句は、もし子供をもうけることがなかったら、不幸を味わうこともなかったであろうと言っているようにも思えます。2歳児か10代の子供を持った親しか理解できない言葉でしょう。しかし、この聖句は同時に、子供もおらず不幸もなかったならば、喜びもないであろう、とも言っています。その喜び、すなわち幸福を得ることは、どれくらい重要なのでしょうか。その答えを、ほんの2節後に、リーハイは次のように教えています。「人類が現世に在るのは〔まさにその〕幸福を得んためである。」(II ニーファイ 2:25, 下線付加)

私たちの場合、その聖句の意味を実感できる経験をしました。最初の妊娠の時、妻のマリーは体調を崩してしまい、とても幸福の絶頂にいるなどとは言えない状態だったのです。数カ月にわたって、毎日決まって気分が悪くなりました。つわりのための吐きけが原因でした。

次の問題は、出産予定日の4週間ほど前に起きました。早産の恐れがあり、数日間入院しなければならなくなったのです。そのために、妻が出席しているクラスでも、また教えているクラスでも、大騒動を引き起こしてしま

いました。しかし、いよいよ出産予定日を迎え、やがて病院のベッドの中でかわいらしい男の赤ちゃんを抱いている妻の姿を見ると、長かった分娩の時間さえ、価値のあるものに思われるのでした。

この光景以上にすばらしいものはあり得ない。妻はそう考えました。赤ちゃんのあまりのかわいさに世界が動きを止めているように感じたほどです。

出産の翌日、妻が病室のベッドでうれしそうに赤ちゃんを添い寝をしていると、担当の医師が入って来ました。実に率直なその医師は、ベッドの母子を見て、明るくこう言ったものです。「いちばん楽な仕事を終えて、気分はどうですか。」

「いちばん楽な仕事ですって。」

「そうですよ。これからの20年間で、本当の意味で大変なんですから。」

それからもう20年以上たちました。私たちも、この世のさまざまなとげを経験することを通じて、子供を持つ喜びとかぐわしい実を実感しています。子供たちのために何度も何度もおむつを取り替え、けがの手当てをし、大量の洗濯をし、機嫌を取り、掃除に手間をかけ、神に嘆願し、はがゆい思いをし、泣き、笑い、彼らのペースに合わせ、また祈りを捧げて、初めて実感できることなのです。子育ては、アンモンが伝道活動に対して抱いていた気持ちと同じではないかと思うことがあります。

「アンモンとその兄弟たちの記事、ニーファイの地に於けるかれらの旅行と苦難と悲歎と苦痛と想像も及ばない喜びとの記事……。」(アルマ28:8, 下線付加)

このアルマの言葉の中にも、リーハイの「みな合して一つとなる」という逆説的な考え方がうかがえます。悲嘆や苦痛と、想像も及ばない喜びとの間には、つながりが存在します。反対のものが存在しなければ、「不幸を知らないから喜びもなく……そのまま罪が無い状態に留」ることになるのです。(II ニーファイ 2:23)

自分の証が強まるにつれ

「シオンに集合」した後に、反対のものをときどき経験する分野がもうひとつあります。それは、証が強まる過程で生じます。事実、証が強まるにつれて直面する問題の大部分は、私たちの真理についての勉強が不足しているからではなく、勉強が進んでいるからこそ現われてくるものです。

七十人であった故セオドア・M・バートン長老が、証を増し加えることについて非常に貴重な考え方を教えてくれたことがあります。長老は、私たちが福音は真実だ

葛藤が数カ月続いた後、青年は福音に対する未解決の疑問はしばらく棚上げにし、自分の信仰を働かせてみた。すると、福音に対する理解も深まっていった。

と初めてわかったとき、私たちの知っている霊的な真理の量はちょうど、ピンの頭ほどの小さな円を描ぎ、それに色を塗る作業にたとえられる、と教えられました。

福音に対する理解が深まってくると、その円もだんだん大きくなってきます。私たちの知識がある程度成熟した段階まで来ると、その円もコインくらいの大きさになります。最初、小さなピンの頭ほどしかなかった知識に比べたら大変な成長です。しかし、1枚の紙の上でこのふたつの円を比較してみると、その小さな証や大きな証の周囲には、白い部分がたくさん残されています。これが未知の部分です。

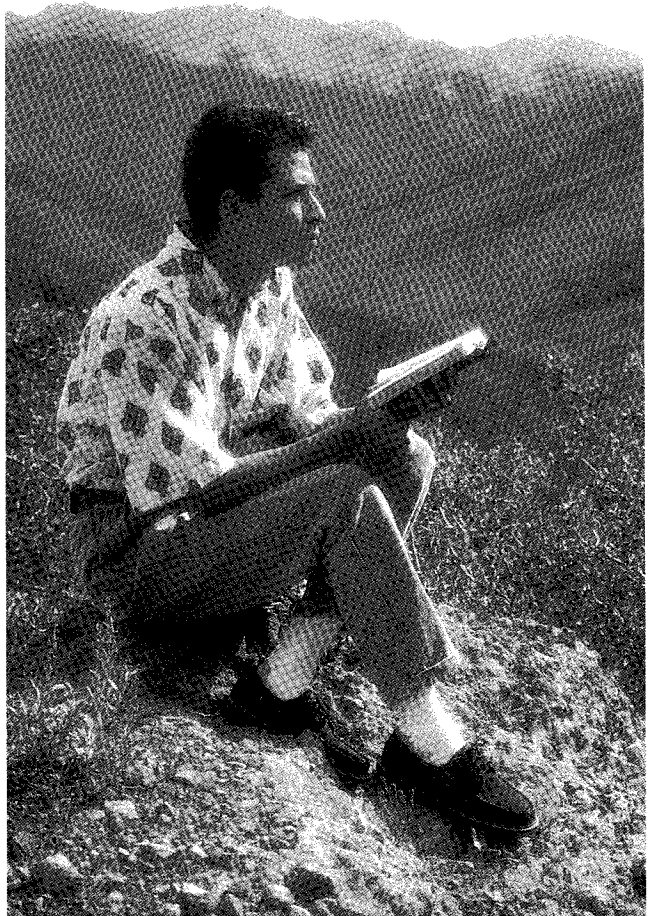
この未知のものに関して私たちの知識が深まってくると、予想もしないようなことが起こります。大きな円の方が、円周もはるかに長いわけですから、未知の部分と接している境界線もはるかに長いということになります。そういう意味で、疑問がわき上がる分野も多くなるわけです。しかし、これは反対のものと接するとき起こる、いわば「産みの苦しみ」であって、私たちの知識や理解力が急激に深まるときに現われる現象です。特に教会員となって最初の数年間で経験することが多いようです。

信ずる心

ある若い会員が福音について、疑問を持ち始めました。ある特定のテーマについて自分なりに掘り下げて勉強していった結果、さまざまな疑問に突き当たったのです。勉強すればするほど、適切な答えが見つからないような新たな疑問も増えていきました。その青年は、次第にいらいらしてきました。疑問にぶつかったら、そのたびに必ず完全な答えを見つけようと決心していたにもかかわらず、そうできなかったからです。

やがて彼は、もし自分で気づいた疑問に答えられないのなら、教会で活発に活動している自分の姿と矛盾するのではないかと考え始めました。しかし、同時に彼は教会を心から愛し、イエス・キリストの存在についても、深く揺るがぬ信仰を持っていました。

そんな葛藤が数カ月続いた後、彼は未解決の疑問はしばらく棚上げにし、自分の信仰を働かせてみようと思心しました。素直に、ただ信ずる心を持つようと考えたの



です。すると、彼の信仰は再び深まり始めました。それは、新しい情報が入手できたためではなく、むしろ、ほかの人々との新しい経験を通じて深まったものでした。職場の友人に福音を紹介し、ワード部で教師の責任も引き受けたのです。その結果、ほかの人々が福音について理解できるよう助けることによって、自分自身の理解も増していくことがわかりました。証として自分がすでに知っている多くの部分に対して改めて感謝するようになると、間もなく未知の部分に対する不満は解消していきました。さいわいなことに、彼は反対のものに出会ったときにも、挫折はしないと決意できたのです。こうして、苦難を通じて学び、力を増し加えていきました。彼にとっての転機は、自分自身の問題にかかわることをやめて、問題を持つ人々を助けようと努め始めたときに訪れたのでした。

生涯にわたる戦い

スペンサー・W・キンボール大管長の生涯について考えてみると、特殊な種類の反対のものに、どう立ち向かっていったのかを示す感動的な模範を見ることができます。私達も、どう見ても挫折するわけがないと思っ

いるときに、この種の反対のものを経験することがありますが、キンボール大管長の場合はどうだったのでしょうか。

キンボール大管長は、生涯にわたって、さまざまな反対のものと苦闘を続けてきました。医学的に非常に危険な状態を何度も経験し、そのために、かつて「わが友、苦痛よ」という詩を書いたほどでした。

ある時、当時心臓外科医であったラッセル・M・ネルソン兄弟に、キンボール長老の診察の依頼がきました。キンボール長老は当時、十二使徒定員会の会長でした。キンボール長老の心臓切開手術は避けられない状況でしたが、長老が高齢であることを考え、ネルソン医師は大管長会に、手術が成功するかどうかは保証できない旨を伝えました。

大管長会がキンボール長老に、成功の保証はないとはいえ手術を受けた方がよいと思われると告げた時、長老は大管長会に、自分がいちばん心配しているのは、手術が終わった後で、部分的にでも障害が残って、自分の果たすべき仕事ができなくなることだ、と答えました。

しかし、長老は大管長会の勧告に従い、その危険な手術を受けることになりました。幹部たちはネルソン医師に特別な祝福を授けました。手術は無事成功しました。さらにネルソン医師は、その手術の最中、キンボール長老がいつの日か必ず大管長になるという、強い霊的な確信を持ったのでした。

その奇跡ともいえる手術に成功した後、おおかたの予想に反して、大管長は夜の闇に光る灯台のように、あの癌で冒された声を発して、み業を進めていきました。私たちは大管長を心から慕い、大管長がたびたび危機を脱して長生きしてくれたことに、心から感謝の祈りを捧げたものでした。

しかし、大管長は手術以降も安楽な生活を送れませんでした。亡くなる前の数年間は、教会員に向かって説教したり、通常の任務を果たしたりすることが肉体的に無理な状態でした。大管長が最も恐れていたことが、現実起こってしまったのです。健康が日々衰えていく状態の中では、託されている責任を完全に果たすことも無理でした。大管長はそのことにどれほど心を痛めたことでしょうか。キンボール大管長のように忠実な人でも、人生のこの段階まで来て、なお反対のものを経験しなければならなかったら、私たちが反対のものを経験することになっても、別に不思議ではありません。

キンボール大管長の晩年には、教会員の心の中に、現代の予言者を慕う、ある種の特別な愛の気持ちがわき上がっていました。総大会のたびに、あの独特の声で明快

に語りかけ、人々の心に深い感動を与えていた日々を、感謝の気持ちで思い出す人々も少なくありません。私たちは、大管長の勇気をたたえる愛の気持ち、そしてどこか自分の家族のひとりに抱くような親しみを感じたものでした。

悲しみを聖なるものとする

こうした一連の感情の中には、単なる幸福感とか教会員のことを深く思いやる心に対する感嘆の念以上のものがあることを、教会員たちは気づいていました。それは、何かに対して一緒に苦闘したことから生じる深い連帯感、そして人生に影響を与え、人生を変えてくれたひとりの友に対する偽らざる感謝から生まれる幸福感、とでもいうものだったのです。そうした個人的な感情や連帯感を背景にして私たちは、大管長が長年にわたって教会の使命について説き、清い生活や悔い改めを勧め、赦しの奇跡について語り、十二分に神権を行使するようにと促してきたことを考え合わせ、その語る言葉になお深い意味があると気づいたのでした。私たちは、幸福でもあり、同時に寂しくもありました。希望に満ち、同時に悲しみにも満ちていました。その状態こそ、みな合してひとつとなった状態でした。こうして神は、大管長の悲しみを聖なるものとするので、私たちを強めてくださいました。

教会に加入するとき、結婚するとき、子供をもうけるとき、伝道の業に携わるとき、証を強めるときなど、数多くの不利な点を克服してやっとそれらを経験できるということが往々にしてあります。だからこそ、ひとたびそうした経験をする特権にあずかったら、後はずっと幸福に暮らせるはずだと考えても、きわめて当然なことです。しかし、人生はそうはいかないのです。

新たな経験は、確かに幸福な生活へとつながるものかもしれませんが、しかし、幸福は、恵みと同じように、「人が最善をつくしてはじめて」(II コリント 12:13) もたらされるものなのです。実際、幸福は、恵みと同様、反対の経験をしている最中にもたらされることが普通です。それは、幸福が、人生という織物を織り成す重要な要素となっているからです。幸福は、反対のものの対局にあるわけではありません。むしろ幸福とは、私たちが、この世でさまざまなチャレンジや条件に対処しているときに生じる複雑な状況の一部、つまり反対のものが共存する状況の一部なのです。□

ブルース・C・ヘイフェン兄弟はブリガム・ヤング大学の教務部長であり、奥さんのマリー姉妹は若い女性中央管理会の一員である。

家庭訪問教師として 過ごした30年

イルマ・デ・マケナ

家庭訪問プログラムが、靈感によって作られたのを私は知っています。長く人生を過ごせば過ごすほど、主は女性たちが奉仕を通して愛を与えるように望んでおいでになり、このプログラムがそのひとつの方法であるという数多くの証拠を目にします。そして謙遜な心でこの召しを成し遂げる人はだれでも、すばらしい体験をするに違いないと信じています。

私は30年前にチリのキルプエで、バプテスマを受けました。それ以来、世界のこの地域で神の王国が着々と前進し続けるのを見てきました。そのみごとな成長は、私にキリストのパン種の説教を思い起こさせます。それはほんの少しのイースト菌でパン生地を大きくふくらますことができるという話です。同様に、私たちが愛の心で互いに仕え合うとき、訪問教師は天父の王国の発展に貢献することができるのです。

じぎ 時宜を得た訪問

私の最初の家庭訪問の同僚は、ネコウチェア姉妹でした。彼女と私はキルプエで福音を受け入れた最初の改宗者です。現在ここには、ステーキ部がひとつと、大きな地方部がひとつありますが、最初のころは、姉妹たちを訪問するのに遠くまで出かけたものです。その訪問先の



年若い訪問教師だったころのマケナ姉妹

ひとりであるメルセデス姉妹は、しばしば家を空ける船員の奥さんでした。彼女は川の近くの小高い所に、5人の子供たちと一緒に暮らしていました。その家は頑丈な造りのすばらしい家で、玄関のドアまで5、6段の階段が付いていました。2匹の忠実な犬がその家を守っていました。

ある冬の雨の激しい日のことです。家の近くの川は激流と化していました。川は堤防を越え、洪水となり、家や動物やあらゆる物を押し流しました。最悪の時間が過ぎ去った時、ネコウチェア姉妹と私はメルセデス姉妹の家を訪ねました。彼女は私たちを見ると、歓喜の声を上げました。そして彼女の家族がどうやって助かったかについて、興奮して話してくれました。

あらしの数日間、彼女は川が増水し続けるのを、心配しながら見ていました。すると、ある夜のことで、外につながれている犬がひどくほえ始めました。彼女がドアを開けると、驚いたことに今まで庭だった所が、湖のようになっていました。彼女はひざまである水の中を渡

孫娘の額は、ひどく出血していました。タクシーを拾って病院へ行こうと、同僚が急いで彼女たちの上着を探している間、私はタオルを持って来て、傷口を強く押さえました。



って、つながれている犬を放し、家の中に入れました。

彼女は10歳と12歳になる年長のふたりの子供を起こし、服を着せました。3人は水位が徐々に玄関の階段、そして室内まで上昇し浸水しようとしているさまを、開いたドアに立ち尽くして見ていました。それから、ひざまずいて、力の限り主に向かって叫びました。水は床から2段下の所で止まり、それからは1センチも上昇しませんでした。こうして家から避難する必要はなくなりました。その日同僚と私が、メルセデス姉妹を励ますことができ、彼女の靈感に満ちた体験を聞いて、本当によかったと思いました。

メルセデス姉妹は、彼女自身、献身的な訪問教師になりました。彼女と彼女の同僚であるオルガ・バーロス姉妹は、知恵遅れの娘と暮らしている、年配の姉妹を訪ねました。ある日、メルセデス姉妹とオルガ姉妹が到着すると、娘さんが途方に暮れていました。母親は昼食後、疲れていたため休憩を取ろうと横になりましたが、やがて娘が母親を起こそうとしても、起きようと言わないのです。訪問教師が到着したのは、まさにその時でした。

私が近くに住んでいるため、メルセデス姉妹は、オルガ姉妹が老婦人にマッサージをしている間、私を呼びに走って来ました。私たちは医者と呼び、医者が到着するまで、その母親のためにできることをすべてしました。医者と呼び、動揺している娘を落ち着かせるべき時に訪問教師が到着したということは、なんと驚くべきことでしょうか。

主のみ手の器

別の機会に、同僚と私は母親と一緒に暮らしているふたりの姉妹を訪問しました。ふたりとも母親が教会員になることを強く望んでおり、私たちが立ち寄るときはいつも、母親に参加するよう誘いました。しかし彼女はそのたびに「今、手が放せないから」とか「いろいろやることがあるので」などと、そっけない返事をするのでした。

ある冬の日のことです。とても寒く、疲れていたため、私たちはその日の訪問の予定を中断せざるを得ませんでした。私たちの最後の立ち寄り先は、あのそっけない母親のいる家でした。しかし、彼女がドアを開けた時、そ

の顔色が変わっているのがわかりました。彼女の幼い孫娘がたった今転んで額を切り、まゆの上からひどく出血していたのです。タクシーを拾って病院へ行こうと、同僚が急いで彼女たちの上着を探している間、私はタオルを持って来て、傷口を強く押さえました。子供が手当てを受けている間、私たちは彼女を慰め、もうひとりの子供の面倒を見ました。それから、みんなを家に連れて行きました。やがて、この女性は教会員となり、訪問教師に召されました。

強い促し

主が私たちをどのようにして主のみ手の器として用いられるかは、めったに予測できません。同僚がこの町を離れていたある年、娘のエリザベスが、私の訪問について来ました。クリスマスの時期だったので、クッキーを焼き、セロハンで包んで松の枝と一緒に赤いリボンで結びました。それから、その小さな贈り物を全部袋に入れ、一緒にお祈りをしました。最後の瞬間に、強い促しを感じたので、もうひとつ包みを増やしておきました。

数軒の家を訪問した後、結婚した息子の家族と一緒に暮らしている姉妹の家に着きました。彼らは皆教会員です。そこへひとりの年配の婦人が、服の配達に訪れました。とても疲れた様子のこの女性はマルガリータという人で、洗濯を請け負って生計を立てていました。私は、その仕事がどれほど大変なものか察し、彼女がすばらしいクリスマスを迎えられるようにという願いを込めて、あの余分に持ってきた小さなクッキーの包みを手渡しました。マルガリータは目に涙を浮かべ、自分はひとりで暮らしており、この包みが唯一の贈り物であると言いました。

そこで私は、主イエス・キリストについて話し、もし主が私たちと一緒にいてくださるなら、私たちは孤独を感じたりはしないことを話しました。そしてこう伝えました。「あなたは神の子供です。神は、この世の父親が子供を愛するように、あなたを愛していらっしゃいます。

マルガリータは目に涙を浮かべ、自分はひとりで暮らしており、この包みが唯一の贈り物であると言いました。



神を求めるならば、神は必ず両腕を広げて受け止めてくださいます。」ほかにも多くのことを話しました。彼女の表情は明るくなり、宣教師と会うことに同意してくれました。

翌月私たちがその家を訪問すると、マルガリータが再びそこにいました。彼女は私たちを抱き締めるとこう言いました。「これからは、あなたがたを姉妹と呼ぶことができます。先週バプテスマを受けたのです。」

手紙と祈り

私たちは両親と暮らしている若く魅力的な女性を、毎月訪問していました。彼女の父親も教会員でしたが、病床にあったため、自分のためにお祈りをしてほしいとよく頼まれたものです。娘が引っ越した後も、彼は私たちがずっと続けて訪問するよう望んでいました。彼を病院に運び込んだことも2度ありました。退院後も約3年間、彼を訪問し続けました。

かつて働いていた船会社は、病気を理由に彼を解雇しました。会社はかなりのお金を支払う義務があり、彼はそのお金をとても必要としていました。そこで、在職中の上司に訴えましたが、無駄でした。私は彼に代わって会社の最高の地位にある所長に、手紙を書くことを申し出ました。主の導きを祈り求めた後、私は彼の窮状を伝える手紙を心を込めて書き上げました。私たちはお祈りをし、神殿の祈りのリストに彼の名前を加えました。

本当に、主は忠実な神の子供たちのために喜んで奇跡を起こしてくださいます。ほどなくして、彼は会社からこれまでの出費すべてをさかのぼって支払うという通知を受け取ったのです。彼は人生最後の時期を快適に送ることができました。一時は私たちに話しかけてくれなかった彼の奥さんも私たちと打ち解け、結局、教会に入りました。後に彼女は、私たちが彼女の家を訪問する際の誠実な態度から、福音を聞く決心をしたと打ち明けてくれました。彼女がバプテスマを受けて1カ月もしないうちに、彼女の夫は亡くなりました。私たちはそのつらい時期、彼女のそばにいました。

私は長年、町のいろいろな所の数多くの家庭を訪問するという恩恵にあずかったので、素晴らしい体験をまだいくらかでもお話しすることができます。姉妹たちを助け、

励まし、その話に耳を傾け、主のみ名により簡潔なメッセージを伝える喜びを味わってきました。私が最も感激するのは、主が私たちの傍らをと共に歩いておいでになると感じることです。いつも心の中を喜びでいっぱいにして、訪問先から戻って来るのです。現在は、94歳の姉妹のお宅を訪問しています。彼女はもう外出ができないので、小さな家の窓辺に座って、毎月私たちの来るのを待っていてくれます。だれかと話をするのをとても楽しみにしているのです。私たちは彼女を心から愛しており、決して彼女を失望させたくないと思っています。

おおぜいのすばらしい姉妹たち

これまでの人生で、私自身は訪問教師は必要でないと思っていた時期がありました。福音について強い証^{あかし}がありましたし、何ら大きな問題がなかったからです。しかしある年のクリスマスイブをひとりで過ごした時のことです。夫は買い物で忙しくしていましたし、ひとりの娘を除いて子供たちは皆結婚し、外国に住んでいました。さらにはその娘も来られなくなったのです。家には抱いてあげる孫もいなくて、とてもがらんとしていました。自分自身を哀れに思うことなどそれまでにありませんでしたが、その夜、居間の暗闇^{くらやみ}に座っていて、涙がほほを伝って流れました。ドアのベルが鳴ったのは、ちょうどそんな時でした。私の訪問教師でした。愛する姉妹たちがクリスマスを祝うあいさつをしに来てくれたのです。それは、あたかも主ご自身が、私はひとりぼっちではないと気づかせてくださったかのようでした。

姉妹たちが帰るころまでには、私の気分はすっかり変わっていました。明かりをつけ、いちばんいい洋服を身につけ、テーブルを飾り、特別な夕食を用意しました。夫が家に帰って来るとクリスマスと一緒に祝い、ふたりとも健康で生かされていることに感謝しました。

さまざまな方法で、これらのすばらしい姉妹たちは天父に奉仕しています。毎月あらゆる人種や国籍の姉妹たちがおおぜい、この地球上の大通りや小道を歩いています。愛と信仰だけを携えて、割り当てられた姉妹たちのドアをノックして、元気な笑顔を輝かせ、「私たちは、あなたの訪問教師です」と自己紹介し、幸福をもたらしているのです。□

カートランド神殿で末日聖徒の集会が行なわれる

カートランド神殿はジョセフ・スミスと教会の初期の指導者たちが、いくつかの聖なる示現を受けた場所である。ここで、昨年(1993年)の11月6日、140年ぶりと推定される末日聖徒イエス・キリスト教会の礼拝集会が行なわれた。

集会は、神権指導者の年次訓練集会ならびに北アメリカ北東地域の伝道部長セミナーに関連して行なわれた。この建物の所有者であり、運営に当たっている復元末日聖徒イエス・キリスト教会(以後「復元教会」と略記)が地域会長会に対し、神殿内で礼拝集会を開くことを許可した。

最後の話者ととして壇上に立った十二使徒のM・ラッセル・バラード長老は、カートランド神殿の使用を快諾した復元教会の指導者を称賛し、双方の教会の間にある温かい関係について言及した。また、この神殿の建設に功労のあったジョセフ・スミスとハイラム・スミスに対する謝意を述べた。バラード長老は、カートランド神殿建設委員会の代表であり予言者ジョセフの兄でもあったハイラム・スミスの子孫に当たる。

バラード長老は、他の団体に手を差し伸べ、礼拝集会を開いたり、靈感を受けたりする場所としてこの建物を提供するうえで、この集会は復元教会にとって大きな一歩を意味すると述べた。

地域訓練集会に出席した150人の指導者にとって神殿内での集会は圧巻であった。みたまが力強く注がれて1世紀半前の同じ神殿内で開かれた集会を彷彿とさせるものがあった、と多くの出席者が語った。

地域会長会の第一副会長である七十人の菊地良彦長老は、集会中に受けた聖餐が最も印象深く心に残ったとして、こう語った。「主の使徒であるバラード長老が、その先祖のハイラム・スミスがかつてしたように神殿の中で聖餐

を祝福されました。」

聖餐を配った菊地長老はさらにこう述べた。「私たちは、おそらく救い主がジョセフとオリヴァにみ姿を現わされた場所の真下に座っていました。」

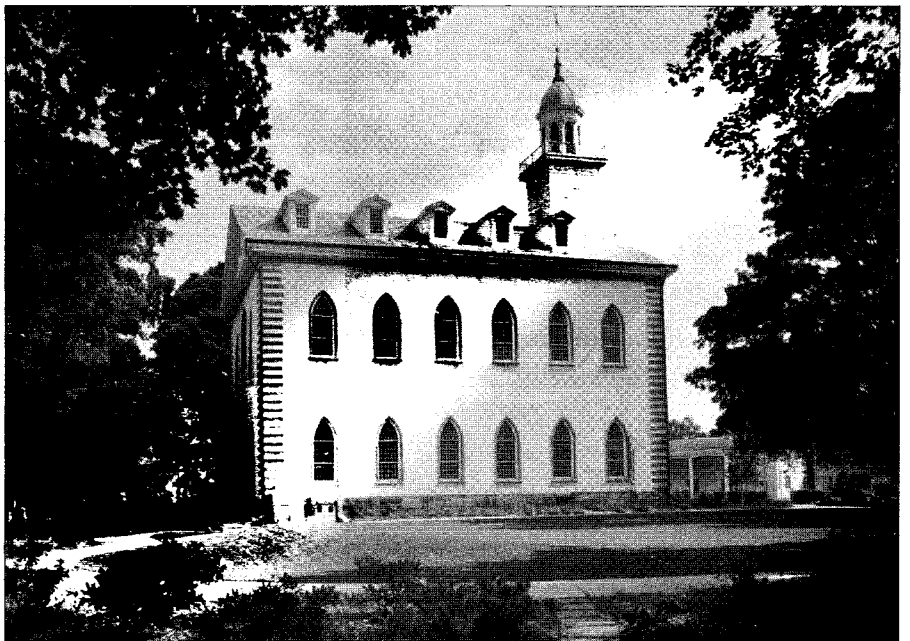
さらに日本生まれの改宗者である菊地長老にとって、バラード長老が引用した教義と聖約第110章、特にその10節は、意味深いものがあると語った。「而してこの宮居の名声は外国までも拡がらん。これわが民の頭に注がるる祝福の始めなり。」

七十人会長会のレックス・D・ピネガー長老は次のように語っている。「バラード長老の持つ権能の下にこの聖なる場所で集会を開いていると、この神殿とその献堂式にまつわる聖典の中の記録がすべて真実であると、しみじみと感じます。」そして深い感動に打たれて、「歌を歌い話す時になっても、それが容易にできないほどでした」と述べた。

ジョセフ・スミスの直系の子孫であり、復元教会にあってカートランド神殿の管理者を務め、集会にも出席したラクラン・マッケイ氏と、バラード長

老は会衆の前で抱擁を交わした。ピネガー長老は、特にこの場面が感動的であったと言っている。こうして、予言者とその兄弟であるハイラムの子孫が互いに聖なる神殿の中でひとつになったからである。

カートランド神殿が教会歴史の中で重要な位置を占めるのは、予言者が次のように記した場所だからである。「御父と御子の座せる神の王座を……私は見た。」1836年1月21日から28日までの間、おも立った指導者とメルキゼデク神権定員会に、エンダウメントの儀式の一部が豊かな聖霊の現われを伴って示された。それはあたかも、たぐいがないあ五旬節の時のようであった。その年の3月30日、教会の指導者とステーキ部の会員ほぼ300人が神殿に参入し、ある人々には救い主がみ姿を示され、別の人々には天使が導きと恵みを施した、と予言者は記している。さらに、1836年4月3日、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは、神殿の献堂式に際し、「教壇の胸欄に立ちたもう主を見た」のである。(チャーチニュース) 1993年12月4日付)



中央宣教師基金の援助で伝道

アメリカ合衆国とカナダ以外の国、すなわち国際地域から召される宣教師は増加を続けており、専任宣教師としてそれぞれの母国で福音を効果的に分かち合っている。

約4万9,000人に及ぶ教会の宣教師のうち、およそ4分の1がこのタイプである。国際地域で働く、地元の宣教師の数が増加するにつれ、宣教師に対する援助の必要性も、一層増加している。米国以外の地域から出るこれらの宣教師の大多数は、教会の中央宣教師基金の援助を受けている。

中央宣教師基金は、援助を受けなければ伝道に出られないふさわしい宣教師を援助するために設立された。

神権指導者は次のような指示を受けている。「教会員は可能なかぎり、中央宣教師基金に惜しみなく献金するよう奨励されるべきである。」

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、大管長になる少し前の1985年4月の大会説教でこう述べている。

「私たちの教会の使命は、全世界の人々に、すなわちあらゆる国々、国民、民族に福音を宣べ伝えることです。……」

教会が直面している問題について説明したいと思います。世界中の国々には、伝道に出たいと願っているふさわしい若人が大勢います。こうした長老や姉妹の多くは、2年分の伝道資金を蓄えていないため、経済的な援助を必要としています。

教会には中央宣教師基金がありますが、すべての会員の方はそれに献金していただきたいと思います。主から豊かな祝福を受けている人々は、このプログラムを支援するために惜しみなく献金することができます。ほとんどの成人会員は、毎月いくらか献金できるとし、そうすることによって、

世界中の伝道活動を成功へと導くことができるのです。」

この説教の中でベンソン大管長は次のようにも語った。「私たちはすべての人に福音を伝えるために、物質面、技術面、霊的なメッセージの面で限らない祝福を受けてきました。これまでのいかなる時代の人よりも、私たちは多くのことを期待されています。

『多く与えられる者は多く求められ[る]』(教義と聖約82:3)からです。」

中央宣教師基金へは、通常の献金明細書を用いて献金することができます。

ラテンアメリカ、フィリピン、南太平洋地域は、地元出身の宣教師が大半を占めている。しかし、ヨーロッパ、

アジア、アフリカにおける地元出身の宣教師は比較的少ない。

アメリカを別にすると、地元出身の宣教師が最も多く働いている国はブラジルで、19の伝道部がある。

西インド諸島、特にドミニカ共和国でも宣教師が増加している。ドミニカ共和国サンチャゴ伝道部のジェームズ・A・ノーバーク伝道部長は、同伝道部で働く地元の宣教師の数はここ2年間で、30パーセントから48パーセントに増加していると述べている。国民の平均所得が非常に低い国では、ほとんどすべての地元の宣教師が、中央宣教師基金から援助を受けている。「基金がなかったら、おそらく現在の10分

家庭集会の場所に向かう、ブラジル・サンパウロ・インターラゴス伝道部のミガエル・H・バーネット長老とエリトン・エバンゲリスタ・サウザ長老。



PHOTO BY ERIC BETTINGER

する、地元出身の宣教師たち

の1の宣教師しかいなかったでしょう」とノーバーク伝道部長は言っている。

「基金がない場合、ワード部で協力して資金を調達することになりますが、教会員が相当の犠牲を払っても、おそらくやっとひとりの宣教師を援助できるにすぎないでしょう。」ノーバーク伝道部長は、伝道部長として召される前に、教会職員として働き、中央宣教師基金に関連した部署にいた。次のように説明している。

「私が教会職員だった時、その基金の持つ可能性に心を躍らせた。しかし、ここに来てまったく別の見方をするようになりました。中央宣教師基金がなかったら悲劇的な状況になっていたでしょう。世界じゅうで、たくさん若い兄弟姉妹がどうしても伝道に出られないでいたでしょうから。」

フィリピン宣教師訓練センターのJ・ウェストン・ドー所長は、センターの収容人数はここ3年間で20パーセント増加しており、今年は5から7パーセント増加したと述べている。このセンターに来る宣教師の大多数は、フィリピン出身で、カロリン諸島、シンガポール、グアム、台湾出身の宣教師もいる。

一般的に、新しく召された宣教師のおよそ10分の1が2年以内の改宗者である。さらに、3分の1におよぶ宣教師は家族の中で本人だけが教会員であり、教会員の家庭の出身者は4分の1程度である。

専任宣教師として伝道に出るという決断は、犠牲を意味するものであり、伝道に出る前は、彼らの多くが家族の大黒柱だったとドー所長は説明している。医療関係の仕事に就いていた人など、立派な仕事を退職して伝道に出た人々もいる。大学を卒業して宣教師に

なった人も多い。

さらに、宣教師になろうとする人々の中に、医療処置を受ける経済的余裕がないため、肉体に障害を持ったまま伝道に出る人が必ず何人かいる。ドー所長は続けてこう語った。

「主に仕えたいという気持ちを最優先させて、宣教師はやって来るのです。『主が、私たちに多くのことをしてくださったので、主にお返しがしたいのです』と言っています。

彼らは大変美しい心を持っています。とても謙遜で素直で、従順です。もし彼らに何か欠けているとすれば、それ

は知識です。祈りの中で彼らはいつも知識を増やせるように求めています。

皆、卓越した宣教師になりますよ。大変よく働きますし、もともと高い霊性を備えていますからね。彼らの多くは、聖典にびっしり書き込みをしています。奉仕するというすばらしい願いを持ち、救い主を深く愛しています。

宣教師たちは、いわば輝かしい若人の一団です。主に仕えたいと望み、実際にそうできるすばらしい若人の群れなのです。」(「チャーチニュース」1993年11月13日付)

最新の教会員総数および地域別会員数

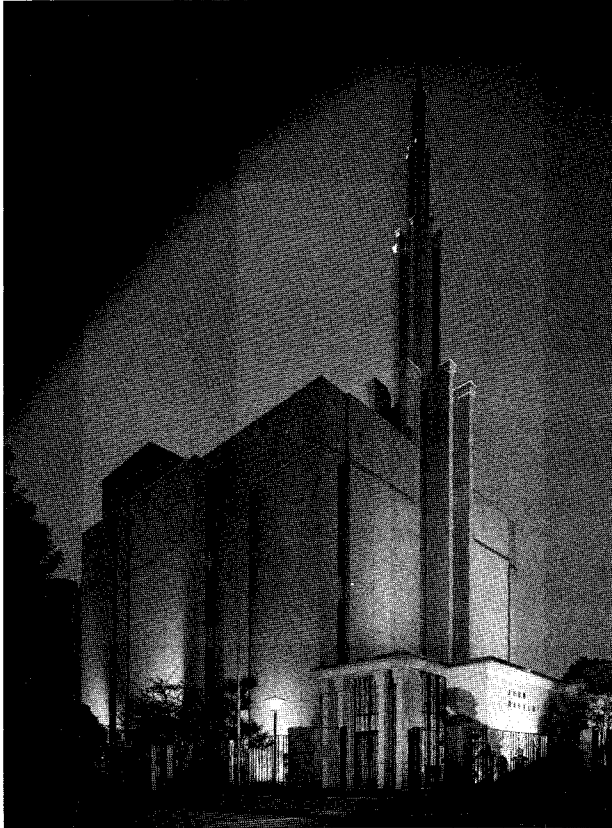
1992年末、教会の会員総数は約840万人に達した。これらの会員は世界各地に散在している。下の表は、地域別に見た会員の分布状況(概数)を示している。
(「エンサイン」1993年12月号, p. 68)

アフリカ	69,000
アジア	512,000
カナダ	133,000
西インド諸島	70,000
中央アメリカ	284,000
ヨーロッパ	163,000
メキシコ	677,000
スカンジナビア	21,000
南アメリカ	1,590,000
南太平洋	293,000
イギリス/アイルランド	160,000
アメリカ合衆国	4,429,000
その他	1,100

再組織され

ローカル

13年ぶりに改装された東京神殿



1980年10月に献堂された東京神殿は、13年ぶりに、内装が一新された。この模様替えのために、大型トラック15台に積み込まれた約5トンにも上る資材や家具類が東京神殿に搬入された。これらはアメリカから輸入されたものがほとんどで、壁紙、カーペットが全面的に張り替えられ、いすやテーブルなどの家具類も取り替えられた。

昨年12月から約3週間にわたる改装期間中、神殿関係者はもとより、東京北、東京南伝道部から延べ120人の宣教師たちがこの作業のために奉仕した。「宣教師たちは神殿での奉仕をまれな特権と受け止め、喜んで働いてくださいました」と松下泰洋・神殿記録部長は語っている。

この改装の総指揮を取った神殿特別プロジェクト・インテリアデザイナーのグレッグ・ヒル兄弟は、次のように語っている。「今回の改装プロジェク

トのために1年半前から準備を進めてきました。カーペットの張り替えなどの通常の改装は10年ごとに行なっていますが、東京神殿の場合は家具類の入れ替えを含め13年ぶりのかなり大がかりな改装になりました。

特に留意した点は日本の文化を尊重し、東京神殿固有のデザインになるように配慮したことです。松や、梅にうぐいす、桜に富士といった風景描写のびょうぶや陶器のつぼなどを入れました。

またキリストの生涯に思いをはせられるようにさらに60枚の額入り聖画を飾りました。カーペット類は全体に淡い色調で、清らかさ、清楚さを醸し出せるように配慮しています。雲をデザインした日の栄の部屋のカーペットはタイからの輸入品で、手織りです。これらの神殿装飾デザインは靈感によるところが大きいです。」

昨年11月28日、アジア北地域会長会第一副会長韓仁相長老管理の下に開催された東京西ステーク部大会で、1990年7月よりステーク部長の責任を果たしてこられた品川文弘兄弟が解任され、新たに宇田川精一郎兄弟(写真中央)が召されました。第一副ステーク部長には、岸野陽兄弟(写真右)が、第二副ステーク部長には、青木秀樹兄弟(写真左)が召され、その任に当たります。

母親のような愛を持って

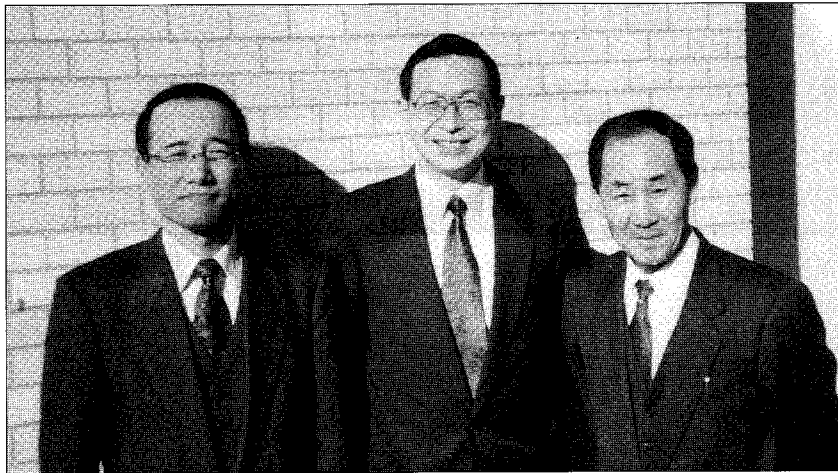
東京西ステーク部長
宇田川精一郎

1993年11月28日、地域会長会の韓仁相長老が私の頭に手を置いて、このように宣言されました。「あなたを末日聖徒イエス・キリスト教会のシオンの日本東京西ステーク部のステーク部長として任命します。」

私はこのステーク部長という大切な責任をいただいた時から、「シオンのステーク部」という言葉が頭から離れませんでした。聖典に記されているシオン、まだ見たことのないシオン。罪と汚れに満ちたこの世の中に、一体どのようにしたら、シオンを築くことができるのでしょうか。そのことについて考えていた時、伝道部長の召しを受けた4年前のことを思い出しました。

その当時、伝道部長として召されたばかりの私は、どうしたらおおぜいの宣教師たちを助けることができるのか、まったく見当がつきませんでした。我が家の4人の子供だけでも大変なのに、伝道部には180人もの宣教師がいて、

た東京西ステーク部長会



その多くは外国人なのです。自分にできるだろうかという不安と責任の重さに圧倒される思いでした。私は導きを求めて何度も祈りました。

プロボの宣教師訓練センターで開かれた伝道部長セミナーに出席した時、そこで七十人の菊地良彦長老きくちよしひこにお会いし、大切な助言を受けることができました。菊地長老はこのような話をされました。「どうぞ、宣教師たちを愛してください。母親が自分の子供を愛するように、母親のような愛で彼らを愛してください。そして何があっても、最後まで、決して、決して、決して、宣教師のことをあきらめないでください。」私はその時に祈りの答えを得たと思いました。母親のような愛で愛すること、そして決してあきらめないこと、このふたつの原則を3年間の伝道の基にしようと決心しました。

宣教師たちは主を愛し、信頼し、進んで人々のために犠牲を払い、すばらしい伝道をしていました。私は毎日、そのような宣教師から多くのことを学びました。しかし、中には助けを必要とする宣教師がいました。落胆したり、自信をなくしたり、自分の弱さに負けたり、規則が守れなかったり、家族に問題があったりして、思い悩んでいる宣教師がいたのです。

赴任して間もない時、私はそのような宣教師と面接をしていました。それまでに何度となく同じ内容の話をして、励ましや助けを与えてきましたが、一時的な効果しかありませんでした。長い面接でかなり疲れて忍耐力がなくなっていた私は、宣教師の言い訳じみた話を聞きながら、「宣教師のくせに何を言ってるんだ」とどなりつけたい気持ちになりました。その時、私の心に「母親のような愛」という言葉が浮かんできました。



宇田川精一郎ステーク部長ご家族

宇田川精一郎ステーク部長の紹介

1951年東京都品川区生まれ。19歳でバプテスマを受け、1975年から1977年まで名古屋伝道部で専任宣教師として働く。東京大学薬学部卒。1979年、碓真弓姉妹いかりまゆみとソルトレーク神殿で結婚し、現在4人の子供がいる。東京西ステーク部多摩ワード部所属。教会管理本部翻訳課課長を務めている。これまで、伝道部長、副ステーク部長、副伝道部長、高等評議員、監督、支部長を歴任している。

私は、はっとしました。そして考えました。「もし私がこの宣教師の母親だったら、どうするだろうか。」すると、いらだちや怒りがうそのように静まり、その宣教師を半ばあきらめていた気持ちが消えうせました。心からの愛と忍耐を持って、相手の話を聞くことができるようになりました。そして、みたまの導きを感じて、必要な助けを与えることができましたのです。

それ以来、私はむずかしい状況になると「もし私がこの人の母親だったらどうするだろうか」と考えるようになりました。そして、思い浮かんだことを実行するように努めました。母親は自分の子供を見捨てたり、あきらめたりすることは決してありません。母親が子供に対して抱く愛は、神の愛に最

900人が詰めかけた「セー

-----セージを迎え

も近いものではないでしょうか。マザー・テレサは愛することについての次のように教えています。「大切なのは、どれだけ与えたかではなく、その与える行為にどれだけ愛を注いだかです。」

私は伝道中の経験を思い返しなが、ステーキ部長として、今自分にできることは何か考えました。そしてモーセの書の有名な聖句を読みました。

「主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」(モーセ7:18)

最後の言葉が強く心に残りました。「貧しき者一人もなかりき。」シオンには、貧しい人がひとりもないのです。物質的な面だけでなく、精神的にも、霊的にも、シオンには貧しい人がいないのです。そのようなステーキ部を築くことができたら、どんなにすばらしいでしょう。教会から離れている人、悲しんでいる人、苦しんでいる人、悩んでいる人、私たちの周囲にはそのような人がたくさんいらっしゃいます。一人一人が母親のような愛を持って人人を愛し、主に助けを求め、そして決してあきらめずに働きかけていけば、いつの日か、貧しい者がひとりもないシオンを実現することができるでしょう。

私たちの小さな働きが、主の大いなるみ業を推し進めるのです。

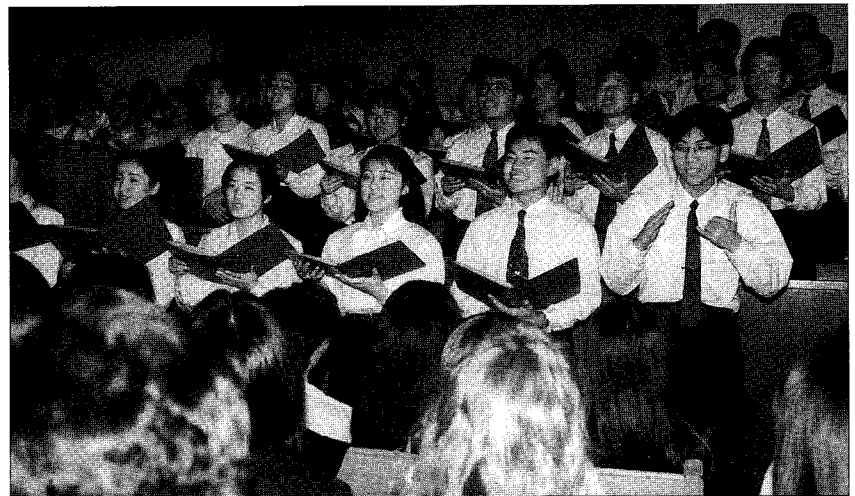
「私は自分が取るに足らない者であることを知っている。私の能力は弱い。それであるから、私は自分のことを誇らないでただ私の神のことを誇る。それは神のたもう能力によって何事もすることができるからである。」(アルマ26:12)

これまで私たち家族を助けてくださった宣教師や教会員の皆さんに感謝しています。また、私を支えてくれた妻と子供たちに感謝しています。子供たちの歌声は、多くの人々の心に主の愛とみたまを運んでくれました。神さまは生きておられます。キリストの福音は飢え渇くすべての人の心を満たしてくれます。そして、人は文字どおり生まれ変わることができるのです。(うたがわ・せいしろう)

5歳の時に火災でひん死のやけどを負ったセージは、生死の境をさまよったのち、奇跡的に一命は取り留めたが、鼻と片方の耳、まぶた、両手の指が失われ、体の45パーセントの皮膚が移植された。大きなハンディキャップを負いながらも、セージと彼女の家族に生きる勇気と希望を与えたのがイエス・キリストの福音であった。セージの話はアメリカ合衆国じゅうの新聞雑誌に掲載され、多くの人々に感動を与えた。(『イエスさまもまえにわたしのようなこどもでした』「聖徒の道」1991年3月号、pp.25-29参照)

この実話をもとに、1991年、東京での公演を皮切りに、翌年、名古屋で、さらに、1993年10月16日から11月21日にかけては大阪インスティテュートに集う会員を中心に、関西6ステーキ部主催による計6回の「セージの歌」の公演が行なわれた。神戸、茨木、下鴨、堺、豊中を会場に行なわれた公演は、賛美歌やオリジナル曲によるコーラスとセージの家族の実写真を使ったスライドによる映像で構成された。そして、11月21日の阿倍野ワード部では、セージ本人と彼女の家族のヴォークマンご家族を迎えて最終公演が行なわれた。

阿倍野ワード部での「セージの歌」最終公演



「イエス様と一緒にいたのを覚えているわ。……私もイエス様を愛してるって言ったわ。イエス様とこのまま一緒にいたいって言ったけれど、イエス様は、あなたにはなすべき務めがありますよって言って、どこかへ行ってしまったの。」900人ほどの観衆は涙ぐみ、すべての目は壇上のセージ本人に注がれていました。これは、昨年11月21日(日)大阪ステーキ部阿倍野ワード部で開催された「セージの

歌」最終公演でのことです。

この日、私たち大阪インスティテュート聖歌隊は、東大阪ワード部でセージと彼女の家族のヴォークマン家族とともにバプテスマ会や日曜学校、神権会、特別な聖餐会を過ごし、その後、彼らを囲む食事会に出席しました。霊的に高められた私たちは、夕方から阿倍野ワード部に移り、最後の練習を行ないました。

開場の時間となりドアが開いた途端、

「ジの歌」の公演

て

おおぜいの人々がなだれ込んできました。三重や和歌山、奈良、兵庫、京都など近県の人ばかりでなく、名古屋や東京の人の姿も見受けられます。別室にはVTRルームや音声のみの部屋がステーキ部神権役員によって準備されていました。

開演の時間となりました。聖歌隊の前には今回の公演に向けて来日したヴォークマン家族が座っています。会場後方のステージの上も人であふれ、見渡すかぎりの観衆で通路すらありません。セージの兄アベリーと父マイケルの話があり、いよいよ公演が始まりました。会場が真っ暗になり、音楽とともに、セージの体験がスライドを通して映し出されていきます。会場は静まりかえっています。「この物語は、今から7年前にアメリカ、ニューメキシコ州のヴォークマン家族が経験したお話です。」ナレーターの姉妹の声が響きます。

緊張感とともに聖歌隊は1曲目に「しあわせな家族」を歌い出しました。物語はどんどん進んでいきます。セージの家族が改宗し、そのほんの数日後にセージは大やけどを負い意識不明の重体に陥るのです。ヴォークマン家族も観衆もナレーションに聞き入り、スライドを見つめています。入り切れない観衆の一部は中庭から必死で中をのぞき込んでいます。「ああ、セージ、あなたを愛していますよ」とナレーターの声が入ります。……「私も愛しているわ。」そうです。奇跡的にセージが、こん睡状態から抜け出したのです。ヴォークマン家族をはじめ、観衆は涙を流して見入っています。スライドやコーラス、ナレーションを通し、セージとその家族の思いや証あかしが伝わってきます。クライマックスが近づいてきました。会場が丸となって何かに包まれているかのようです。最後に聖歌

隊は「The Greatest Gift(最も大きいなたまもの賜)」を歌い、コンサートは静かに幕を閉じました。

観衆、聖歌隊、ヴォークマン家族が涙を流しています。皆が霊的に高められたひと時でした。

セージの母デニーズに続き、最後にセージが壇上に立ち証をしました。セージはほんとうにイエス様に会い、声をかけられたのだとわかりました。そして、自分たちの中でもそれが証となっていくことがわかるのです。

自費で来日され、私たちに希望と愛を教えてくださいましたヴォークマン家族に感謝しています。私は恵まれて、このプログラムに参加できたことを感謝しています。また、助けてくださった多くのかたがたに心から感謝いたします。

私たちはこの公演を通して多くのことを学びました。一致すること、指導者に従うこと、人を思いやること、伝道の喜び、恐れを克服する勇氣、自分の才能、合唱の楽しさ、そして、主に頼ることの大切さを知ったのです。指揮者、伴奏者、聖歌隊、スタッフ一同



火災に遭う数カ月前のセージ

が同じ目標に向かって一致するとき、そこにはみたまがあつて、主が力を与えてくださることを証します。1年以上を通して毎週、京都と阿倍野、神戸の3クラスでの練習や合同練習、合宿を乗り越えて得たこれらの祝福に感謝いたします。(レポーター：杉本浩彰ひろあき 大阪インスティテュート学生協会会長)

セージ・ヴォークマンと 出会うまで

「神のなされることは皆その時にかなって美しい」(伝道3:11)

大阪ステーキ部東大阪ワード部 塩谷葉子

「塩谷姉妹、あなたを『セージの歌』の音楽指導者に召します。」突然の恩田兄弟(前インスティテュート教師、現岡山伝道部長)の言葉に、私はあ然としてしまいました。バプテスマを受けて1年足らずのうえ、音楽に対して特別な訓練も受けていません。何をどうすればよいのかまったくわからないまま、歌の練習が始まりました。

ゆっくりペースの最初の半年間と打って変わって、コンサートまでの半年間は何度も指導者会を開いては、練習、

練習の繰り返しでした。聖歌隊のメンバーに、そして指導者たちに疲れの色が出始めました。喜びを持ってやっていたはずの音楽が、だんだんと苦痛に変わってきて、そのころからメンバーがひとり減り、ふたり減り……。

焦りと自己嫌悪、人に対する疲れに何度も泣きました。「どうして神様は私を召されたのだろう。こんなに苦しまなければならぬなんて……。これは伝道じゃない。」私にとってセージの物語は、遠い存在になっていきました。そして逃げ出すことばかり考えて

いました。

そんなある日、ある指導者と電話で話をしていた、「もしここでセージのメッセージがもらえたら、皆の力になるのに」という何げない言葉がすぐに、「もらえるかもしれない」という気持ちになりました。

その2カ月前に、「エンサイン」の『セージの歌』の記事が読みたいと大阪伝道本部に電話をしたことがありました。そして電話口に出てきたニューメキシコ出身のガルブレイス長老が「妹がセージのお母さんに幼稚園で学んでいた」と言っていたのを思い出しました。伝道が終わっている彼の家の電話番号を探し出し、彼の家に電話する前に主に祈りました。「大丈夫」という気持ちを感じました。ガルブレイス長老のお母さんはセージの事故を覚えておられ、そしてセージの家族であるヴォークマン家族の住所を調べてみる、とお願いされました。主に感謝の祈りをした後、「大丈夫」という気持ちは大きな確信に変わりました。

みこころを待つということがどういうことか初めて体験しました。とても平安な気持ちでした。あれほど人に疲れていたのに、その傷はまったく癒えていました。

それから3週間後、ガルブレイス長老のお母さんから、「連絡が取れた。すぐにヴォークマン家へ電話してほしい」との電話が入りました。涙で声を詰まらせながら、セージのお母さんのデニーズに詳細を説明し、最後に2週間後にアメリカのユタ州に行く予定があるので、できればニューメキシコ州のヴォークマン家を訪問して、直接セージからメッセージをもらいたいと伝えました。返事は即座にOKで、何の問題もなく、彼らを訪問することになりました。しかし、やけどの跡が残るセージを直視する自信がなかった私は、フライトの前にジョーダンリバー神殿に入り、祈りました。

温かいものが込み上げてきて、何の不安もないまま空港に降り立った私の前に出てきた女の子は、はにかみながら私を抱き締めてきました。「セージ?」「そう。」「ああ、会えた!」涙がポロポロと出てきて止まりませんで

した。きゃしゃな体つきの彼女は、やけどの跡が残っているものの、普通の12歳のアメリカ人の女の子でした。心の中で主に何度も感謝しました。

家に着いて、セージのお母さんのデニーズは、当時の経験を涙ながらに語ってくれました。

「あの時は、どうすればよいのか、わかりませんでした。セージを助け出した主人のマイケルも目と両手に大やけどを負ってしまって、病院のベッドの上です。私は毎日泣いてばかりでした。

そのうえ、事故から1週間ぐらいしてから、まだこん睡状態のセージの顔や体全体が水ぶくれになりました。ふぐのようになります。そして、パンパンに張った皮膚が次々とはじめていき、皮膚はギザギザに裂けて、それを縫い合わせるのは大変でした。でも私は、神様が必ず助けくださると信じていました。そして心からの祈りを続けました。」

6週間たつてから、奇跡的にもセージはこん睡状態から脱します。「セージは自分の体のことを嘆いたりしませんか?」私にはとても耐えられない経験であるため、思わずこう尋ねました。すると、デニーズは首を横に振りながらこう答えました。

「彼女がベッドから起きられるように

なってから、私は彼女に現実を伝えなければいけないと思いました。そしてエアロビクスの部屋にあるような、体全体が映る大きな鏡の前に彼女を連れて行き、その前で彼女のガウンを取りました。彼女は驚いて、しばらくだまりこんだまま自分の姿を見つめていました。何よりも彼女は、両手の10本の指を失ったことがショックのようでした。でもすぐに気を取り直して、『指も歯のように、またはえてくるから大丈夫』と自分に言いかけさせていました。

私は胸を詰まらせながら『セージ、あなたの指はもう二度とはえてこないのよ』と言いました。

セージは泣きました。彼女は絵をかくことが大好きだったんです。

私たちは抱き合って、長い間一緒に泣いていました。でも、5歳のその時泣いたきりで、彼女は12歳になるきょうまで、一度も泣いたり不平をもらしたりしたことはありません。彼女はイエス様の腕に抱かれ、癒やされたことを今でもはっきりと覚えているんです。」

話を聞き終わって、私は心が洗われる思いでした。「セージの歌」のメンバーと早くこの話を分かち合いたいと思いました。

翌日、安息日の朝、セージの両親から「コンサートを共に日本へ行った



セージの集っているニューメキシコ州バルナソロワード部でのヴォークマン家族(左から兄アベリー、セージ、母デニーズ)と塩谷葉子姉妹

い」と言われ、眠けが一瞬にしてとんでしまいました。物価の高い日本へ家族4人で来るということは、負担が大きいと思い、その旨を伝えると「セージは宣教師としての務めがあるからね」とお父さんのマイケルに大きな笑顔で返されました。この時、はっきりとわかりました。どうして神様が私を指導者に召されたのか。人には各々役目があって、私にはこのヴォークマン家族とコンタクトを取るという大事な役目があったことを知りました。

「神のなされることは皆その時にならって美しい。」(伝道3:11)主の手足となって働くことができたことに感謝しています。セージとその家族が来日してコンサートに来られるということは、私を含め「セージの歌」の公演を準備している人々にとって大きな励みになりました。そして、一人一人が互いを思いやり、一致していきました。

セージを前にしての最後のコンサートで、私たちは証を歌にのせて伝えました。会場におられた約900人のかたがたに向けて、そして何よりも主に向

けて歌っていました。コンサートはみたまにあふれたものでした。

コンサートの締めくくりに、セージが証をしてくれました。

「(私がこん睡状態で)イエス・キリスト様と一緒にいた時、それはとてもすばらしい気持ちでした。私は、ここにいらっしゃる皆さんが、いつか私と同じ経験ができるように祈っています。」

か細い声ながら、はっきりとこう述べた彼女は光り輝いていました。私同様、ほかの方も皆セージを見て、純粹でとてもかわいいと思われたことでしょう。

公演の後、宣教師から福音を学んでいる19歳の男性から「父は、ぼくが改宗することに猛反対していますが、決してあきらめません」という力強い言葉を聞きました。セージとその家族と交わった人々は、皆とてもやさしい気持ちになっていきました。ヴォークマン家族の模範を通して、私たちが今後どのように生活していくべきかを学びました。

現在、東大阪ワード部では、約30人

から成る聖歌隊が結成され、活動を開始しています。これは「セージの歌」のコンサートのおかげだと感謝しています。メンバーの中には、宣教師から福音を学んでいる方や、まだの方もいらっしゃいます。神様は確かに生きておられ、私たち一人一人を深く愛してくださり、イエス・キリスト様が主であり救い主であることを証します。

インスティテュート学生協会の会長会、「セージの歌」の公演のための関係者全員、そしてコンサートで大きな助けをくださった各ユニットのかたがたに感謝しています。ガルブレイス長老のご家族、および、ヴォークマン家族の来日に当たり大きな愛で迎えてくださった兄弟姉妹、そして東大阪ワード部の会員に心から感謝しています。アメリカでそして日本での滞在中、ずっと愛すること、そして希望を持つことのすばらしさを教えてくださったヴォークマン家族に特別に感謝しています。(しおや・ようこ 東大阪ワード部音楽委員長)

家族の証

最愛の妻を主のみもとに導く

—愛と希望があれば—

名古屋ステーキ部名東南ワード部 浅井紀彦

「^{じゅうぶん}分の一なんて、とんでもない。」これが妻の最初の言葉でした。それまでの約3カ月間、私は宣教師のレッスンを受けるために日曜日になると、いつもひとりで教会へ通っていました。その間、家で福音につ

いて話したことはまったくといっていいほどありませんでしたが、いよいよバプテスマ予定日が近づいて、宣教師からバプテスマを受けることと、自分の一について妻に話すようにとチャレンジがあったのです。

バプテスマ予定日の3日前に妻に猛反対された私は、もうバプテスマは受けられないだろうと思いましたが、そのこと自体はあまりショックではありませんでした。というのは、私をもっと悲しくさせる理由がほかにあったからです。それは、私が本当に妻を愛していて、できることなら永遠に一緒にいたいと願っているにもかかわらず、その気持ちを妻に伝えることができないでいたからです。

そのため私は、この時初めて天父にすべてを託し祈りました。本当に初めて心から祈りました。「バプテスマを

受けられなくてもいい。ただ私が妻を愛する気持ちだけは届けてください。」すると、「一度だけ教会に連れて行きなさい」という聖霊のこたえが得られたように感じました。妻はもともと宗教に対して不安を抱いていたため、初めはどうしても教会へ行くことを嫌がっていましたが、一度だけでいいからと何度も頼むと、承知してくれました。そこで私は、宣教師にすぐ連絡を取り、一度だけ妻を教会に連れて行くので、なぜ私がバプテスマを受けたいと望んでいるのか、またバプテスマによってどのような祝福が得られるのか、というテーマで1回かぎりのレッスンをお願いしました。このような私のわがままに対して、「私たちにできることなら何でもしますよ」と笑顔でこたえてくれた宣教師の言葉が忘れられません。

次の日、初めて教会を訪れた妻に対し、宣教師はバプテスマによる祝福として、この世的な幸福から神殿結婚による永遠の家族に至るまでわかりやすく教えてくれました。それは、イエス・キリストの贖いや、モルモン経、あるいはジョセフ・スミスのことにはほとんど触れられませんでした。バプテスマを受けて妻と永遠に一緒に暮らしたいという私のいちばん大切な気持ちを伝えるにはじゅうぶんすぎるほど、みたまにあふれたものでした。その証拠にあれば宗教に対してかたくなだった妻が、不思議なぐらい素直に福音を受け入れていくのがわかりました。そして最後に小さな奇跡が起こったのです。

その日私は宣教師を妻に紹介した後、別室でひとりバプテスマの面接を受ける予定でした。家を出る時にそのことを妻に伝えると「ひとりで話を聞くのは嫌だからね」と懇願され、どうしようか迷いましたが、とにかく主を信じて教会へ行くことにしました。ところが宣教師は私と妻を最後まで引き離すことなく一緒にいさせてくれたのです。レッスンが終わった時に、「バプテスマの面接はしなくてよかったですか？」と尋ねると、宣教師は「おふたりを見ていたら、今ふたりを離してはいけなくと聖霊が教えてくれたんですよ」と話してくれました。これを聞いて

た妻は、聖霊が何であるかまだ教えられていなかったにもかかわらず、それまでの不安と緊張を洗い流すかのように、感激の涙を流していました。

こうして妻は、初めて教会に来たその日のうちに聖霊の証^{あかし}を得たのです。帰りの車の中で妻は、あれだけの祝福が約束されているのだからバプテスマに対してもう何も反対する理由がないと言いました。そればかりか、自分も宣教師からレッスンを受けたいと言い出したのです。私はあの時、一度だけ妻を教会に連れて行きなさいと答えてくださった天父の真意が理解できたように思いました。私が何とか一度だけ妻を教会に連れて行けば、後は主がすべてしてくださるということだったのです。

3日後の12月13日、私は妻が見守る中で無事バプテスマを受けることができました。しかしそれは終わりではなく、まさに始まりだったのです。まず妻が宣教師から福音を学ぶようになりました。今度は妻がバプテスマを受ける番だからです。私はバプテスマの証の中でみずから手で妻にバプテスマを施したいと宣言しました。それは希望というよりも必ず実現できるという信仰でした。

折しも1週間後、「セージの歌」の最終公演が名東南ワード部であり、公演後、妻は聖霊に満たされてクリスマスにバプテスマを受けたいと決心しました。クリスマスまでわずか6日しかなく、しかもまだ私はアロン神権を授けられていませんでしたが、ふたりとも、みこころなら必ず成就するという思いでした。

翌日から、妻は朝と昼の2回宣教師からレッスンを受け、夜は私が昼間のレッスンの疑問に答えるという生活が始まりました。さいわいにも、妻の仕事がクリスマス休暇に入り、じゅうぶんな時間が割けるようになったのです。

次の安息日には、私にアロン神権が授けられ、すべてがみこころのままに祝福されているようでした。毎晩のようにミルクティーを愛飲していた妻は、知恵の言葉でつまずいたものの、「ミルクティーを飲んでいては神殿結婚できません」という宣教師のきっぱりと

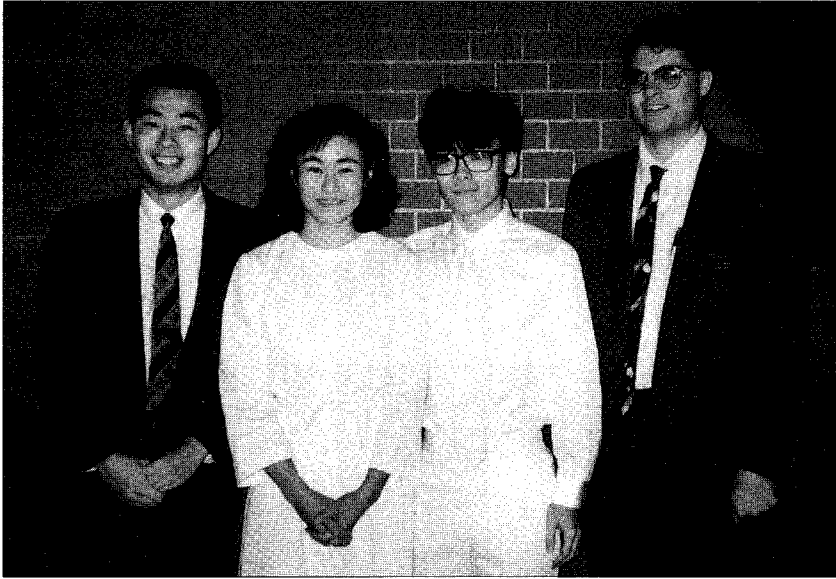
した言葉に心を決め、そしてついにクリスマスにふたりの願いが成就したのです。

最愛の妻をみずからの手で主のみもとに導く、神権者としてこれ以上の祝福はありません。後で振り返ると、この神権の行使が私の信仰を強めることになりました。神権者である私がふさわしい生活をしなければ、妻のバプテスマが無効になってしまうかのようにいつも感じていたからです。

妻が初めて教会に来た時に得た聖霊の証によって、夫婦はいつも一緒にいるべきであることがよくわかりました。「人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。」(エペソ5:31)今私たちは、夫婦としてはもちろん、ステーキ部宣教師の同僚としてもいつも一緒に信仰生活を歩んでいます。

私がまだバプテスマを受ける前、宣教師にこう尋ねたことがあります。「私がバプテスマを受けたいのは愛する妻と永遠の家族を築きたいからなんです。でもこの福音が真実であると確信できるほどの信仰がありません。それでもバプテスマを受ける資格がありますか?」「あなたにはじゅうぶん信仰がありますよ。」宣教師はこう言ってアルマ書第32章21節を分かち合ってくれました。「信仰とは完全に物事を知ることではない。それであるから、あなたたちにもし信仰があるときには、まだ見ていない本当のことを待ち望む。」

大いなる希望とほんの小さな信仰によってバプテスマを受けた私たちは、今では大きな信仰とさらに大きな希望を抱えています。「希望がなかったならどうして信仰ができるか。……永遠の生命を得ることを望むべきである。このような希望はあなたたちがキリストを信ずるから生ずる。……もし人に信仰があるならばその人に希望もまたなくてはならない。信仰がなければ希望もまたないからである。」(モロナイ7:40-42)私たちのように信仰の薄い者でも、愛と希望があれば数多くの祝福と証を得て信仰が増し加わることを証します。(あさい・のりひこ ステーキ部宣教師)



夫の愛に導かれ

「どんなに幸せであっても必ず、福音によって、
今以上に幸せになれることを証します。」

名古屋ステーキ部名東南ワード部 浅井智子

1992年12月25日、クリスマスという特別な日に、私は愛する夫からバプテスマを受けることができました。この日の感動を私は永遠に忘れることができせん。なにしろ、夫と新しい第一歩を踏み出す大切な生まれ変わりの日となったのですから。夫の腕を握り締めながら水の中に沈められていく一瞬一瞬を今でもはっきり覚えています。まるでそれは、母体の羊水の中で浮かんでいる赤ちゃんになったようでした。そして水から上がった時の言い得ぬほどの満ち足りた気持ち……。この教会に導いてくれた夫に深く感謝しています。

とは言っても、私がバプテスマを受けるまでの道のりは決してへいたんなものではありませんでした。夫が街頭で宣教師から声をかけられ、福音を学び始めたころ、私はひとりとても不安でした。夫は、人が勧めてくださるお話は、1度は聞いてみようという人でした。これまでも、いろいろな宗教のお話を1度か2度聞きに行きましたが、納得がいかず、それ以上重ねて出かけるということはありません

でした。それがどうでしょう。今回はというと、毎週日曜日になると必ず教会に出かけ、それが1カ月、2カ月と続いたのです。私は不安になって「私と宗教とどちらかを選ぶとしたら、どっちを取るの?」と問いただしたことがありましたが、夫の「もちろん、智ちゃんだよ」というやさしい言葉に安心して、夫が福音を学ぶのを見守ることにしたのを覚えています。

しかし、とうとう3カ月目には、夫はバプテスマを受けて教会員になりました。私は、このうえなく不安な気持ちになりました。夫からバプテスマによって得られる祝福を聞く前に、戒めだけを聞いていたからです。特に、当時借金^{じゅうふん}のあった私^みたちには、とても什分の一^{じゅうぶん}を捧げる余裕があるとは思えませんでした。また、もともと宗教に対して偏見を持っており、何かに頼らなくても私たちほど幸せな夫婦はいないとも思っていました。そのようなわけで私は夫のバプテスマには猛反対の立場を取っていたのです。今思うと、とても高慢な態度に恥ずかしく思います。しかし、主はそんな私

たち夫婦をも招いてくださっていました。

初めて教会に行った日のことは、夫が書いてくれているとおりですが、夫に福音を教えてくださいと宣教師の中村長老から、「紀彦さんは智子さんを心から愛しています。とてもとても愛しています」と真剣な表情で言われた時、私の心の中にあった不安はすーっと消えてなくなり、かわりにあふれるほどの温かい気持ちで満たされました。この日の出来事の一つ一つは私の信仰生活の第一歩となるものでした。

こうして夫の愛に導かれて教会員となった私は、真理を学ぶことで夫婦が一致し、イエス・キリストの光を見詰めて歩いていくことで、完全な幸福を得ることができることを今は知っています。中村長老が残してくれた言葉が思い出されます。「什分の一の戒めによって浅井家族はこれからどんどん豊かになっていきますよ。もしそのようにならなかつたらそれは私がうそをついているか、浅井家族がふさわしい信仰生活をしていないかどちらかです。」1年前、あれほど反対した什分の一ですが、今ではまさに「天の窓」より「あふるる恵み」をいただいていると思えるようになりました。(IIIニューフェイス24:10)

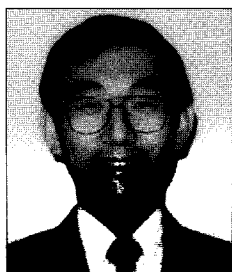
さて改宗して1年、私たちふたりにはさまざまな変化がありました。まず、心から子供が欲しいと願うようになりました。それまでは、ふたりきりの時間がまだまだ欲しいと考えていたのですが、たくさんのお子さんを授かったご夫婦の幸せな様子を教会で見ることができて、子供のいる家庭がどんなに素晴らしいかわかりました。そして主のご計画を進めるためにも、私たちは子供を望むべきだと思えるようになったのです。今は私たち夫婦の元にも、みこころであるならば1日も早く子供が授かることを願っています。そして母親は子育てと家族を第一にすべきであるという指導者の言葉に従って、私は退職する決意もできました。職場の保母仲間に「どうして?」「もったい

大阪堺ステーキ部 河内長野ワード部

兄弟姉妹が楽しく 集える教会に

——古い家から教会堂に——

大阪堺ステーキ部河内長野ワード部
志野年昭



約 9年前、井戸と大きなかきの木のある古い家の教会は、30人も集ったらいっぱいになってしまい、早くここを出てもっと多くの人の集える所をと思って、私たちは教会の場所を探していました。その時、駅から歩いてたった5分という好条件で倉庫を見つけることができました。

二棟続きの倉庫は60人は集え、部屋も5つは取れる所でした。線路沿いの建物で、夏には夜店を出したり、窓から垂れ幕を垂らし伝道をしたりと楽しく集っていました。当時の河内長野支部には、大阪南部の5つの市や町と和歌山、奈良の一部を含む広い地域の人々が集っており、家族も多く、子供たちが会員の半分を占めていました。見る見るうちに倉庫の教会はいっぱいになり、今度は新しく教会堂を建てることのできる所を探し始めました。

教会の横に不動産屋があり、格安の良い土地があると聞いて、祈りの気持ちをもって見に行きました。価格や広さ、道路幅などが管理本部から提示された条件に一致し、間もなくそこに教会堂が建つことが決まりました。

土地購入の契約時には教会法務部のケント・ギルバート兄弟がいらっしやり、講演もしていただきました。そして工事の終わるころには、恵まれて教会の真ん前にバスの停留所までできました。ここで私の支部長としての責任も終わり、喜びをもって大役を果たせたことを心から感謝いたしました。

そして4年後、ワード部になった河内長野で、今度は監督という責任をいただいて、心を引き締めております。

私にも愛する妻と15歳を頭に6人の子供がいます。この子供たちを含めて、すべての兄弟姉妹が楽しく集える教会にしたいと願っています。

そこでまず、すべての会員に必ず誕生日に聖餐会のお話が当たるようにしました。ひとりで説教台に上がりお話ができない小さな子供たちは、家族などに連れられて上がります。そしてお話か、自己紹介か、おじぎだけでもするようにしました。

さらにワード部を8つのブロックに分け、12組のホームティーチャーが自分の住んでいるブロックの家族を最低月1回訪問し、何かあるとすぐにホームティーチャーに助けてもらえるようにしました。これによって28件だった前月のホームティーチングの件数が、翌月には107件になりました。今度は100パーセント(165件)を目指して頑張っています。

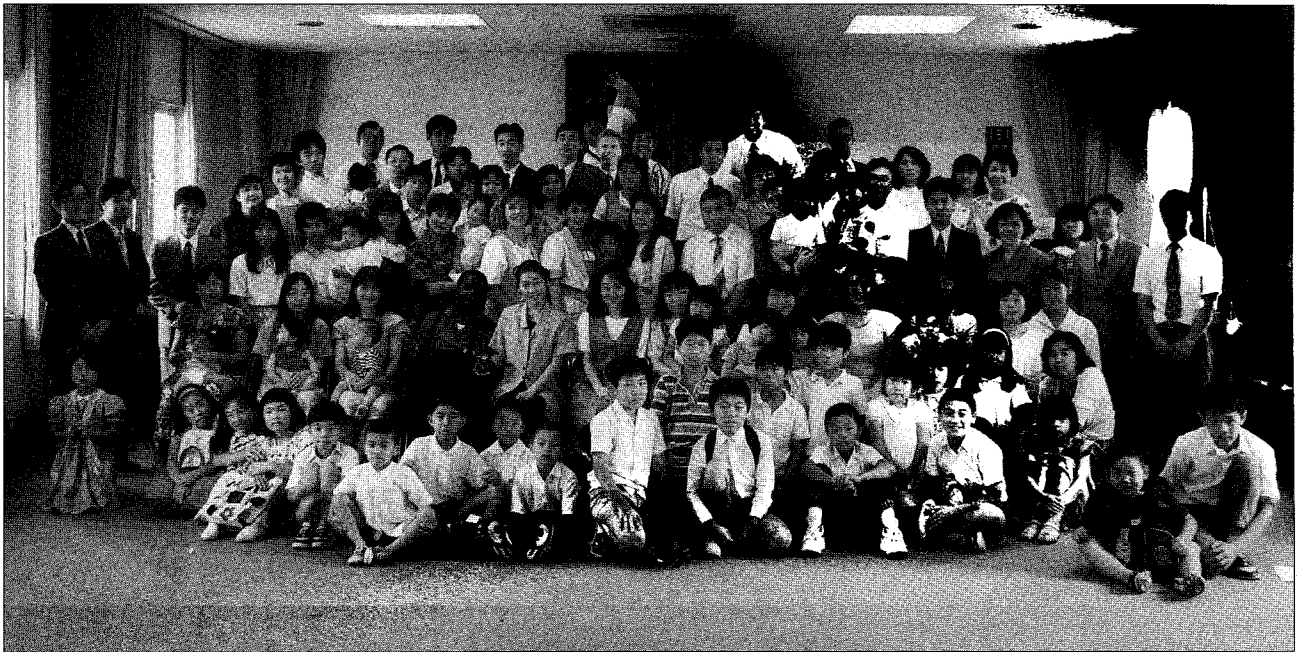
また、ふたりの副監督を中心に1、2カ月に1回のペースで音楽祭を開いています。いつしかワード部で紅白歌合戦ができるまでになって、妻とともに手を握って観覧できることを夢見ています。この教会は名前の示すとおり、まことにイエス・キリスト様を基とする教会であり、現在も生ける予言者によって導かれていることを証いたします。(しの・としあき 監督)

ないのに！」と言われましたが、私はもっと大切なものを見つけてしまったのです。

また、互いにいたわる気持ちが増し、夫は私を今まで以上によく手伝ってくれるようになりました。教会で姉妹のためのディナーパーティーが長老定員会主催で開かれた時のことです。それまで、まともに料理などしたことがない夫が私の手を借りずにビーフシチューに挑戦。その時、料理のおもしろさを味わったらしく、それからときどき食事を作ってくれるようになりました。今では、肉じゃが、おみそ汁、と少しずつレパートリーも増えつつあり、大学時代の4年間、ほとんど外食で過ごした夫にとっては、目を見張る成長ぶりと言えるのではないのでしょうか。

私たち夫婦は改宗前も、とても幸せでした。でも今は、もっともっと幸せです。救いの計画を知って、試練も祝福であると思えるようになりました。「神は汝の受けた艱難を神聖なものにしてこれを汝の利益にして下さる」のです。(IIニーフай2:2) また、主は私たちの考えよりも高いところを見ておられることを知り、じたばたしたり、いらいらしたりしなくなりました。(イザヤ55:9参照) どんなに幸せであっても必ず、イエス・キリストの福音によって今以上に幸せになれることを証します。しかもそれは、この世限りの幸せではなく、永遠に続く幸せなのです。そしてこの永遠の生命に至るただひとつの道を、1歩ずつ愛する夫と歩んでいくことに大きな喜びを感じる毎日です。

私たち夫婦が目標にしてきた神殿での結び固めの日(1994年1月15日)がとうとう決まりました。中村長老にお知らせしたところ「ご主人のバプテスマに反対した人が神殿にねえ」と笑っていらっしやいましたが、このようなすばらしい祝福にあずかれることを心から感謝しています。神様と主が私たちを愛してくださっていることがよくわかります。神様の愛を知ることができた今、今度は、私たちが主の器となって周りの人に愛を伝えていきたいと思えます。(あさい・ともこ ステーキ部宣教師)



なぜ教会に行くの？

——愛する妻や子供と
一緒に——

大阪堺ステーキ部河内長野ワード部
森下浩司

会社の同僚に、なぜ教会に行くのか、と聞かれたことがあります。その時、とっさに「ああ、好きだからですよ」と答えたのですが、後になってなぜ好きと答えたのだらうと考えてみました。

まず、愛する妻や子供と一緒に教会に行けるのがうれしいのです。聖餐会で兄弟姉妹の霊的な話を聴き、聖霊が私に感動を与えてくださるのが、また、日曜学校で教師の方から知らなかった教義について学べるのが、そして神権会で神権者として家長として親として夫としての責任を認識するとき、「頑張ろう」という気力がわいてくるのがうれしいのです。

かつての私だと、このようには考えていなかったでしょう。永遠の結婚をし、いつも愛する妻が隣にいて私を励まし、子供が笑顔を見せてくれるのが私を変えたのです。

人は絶えず近くにいる人に影響を与

えているようです。私は妻に、妻は私に良い影響も悪い影響も与えています。小さなことでも影響し合っていると感じます。

私の会社では机の上に透明なプラスチックの下敷きを置き、その下に皆はいろいろな物を入れています。私の場合は、家族の写真を入れています。仕事が嫌になったときにそれを見ると頑張らないといけないという気持ちになります。写真を入れて幾日かたつと、写真のことが職場でだんだん知れわたっていき、遠くの席からも見に来るようになりました。

初めは「これ少し恥ずかしい」とか、「家族を大切にしているんだ」と言っているだけでしたが、それでも幾日かたつと、家族の写真を飾る人がひとり、ふたりと出てきたではありませんか。最近では何人もの人が家族の写真を入れて、だれもそれを恥ずかしいと言う人がいなくなりました。小さなことですが、多少なりとも反響があり、

うれしく思いました。

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない」(マタイ5:14)との聖句にあるように、キリストの光を輝かせられるよう日々努めています。そして、私たち家族を照らしてくれます河内長野ワード部の兄弟姉妹に感謝いたします。(もりした・こうじ ワード部日曜学校会長)



森下ご家族

福音を基盤とする 末日聖徒の「伝統」

—— 3週間の家族旅行を
通して ——

大阪堺ステーク部河内長野支部
京谷隆

4 年間の支部長・監督の責任を通して、私は、この教会が神様から正しい権能を与えられた地上で唯一の教会であることを再認識しました。

神様は、力のない私を召すことにより、教会員がそれぞれ協力することの大切さを教えてくださいました。私を支えてくださった教会員、宣教師に心から感謝しております。指導者のかたがたは私のためにいつも祈ってくださいました。「祈りの力」はこの地上で最も人々を勇気づけるものだと感じております。

先日私たち家族10人で3週間のアメリカ旅行をしました。その時の経験を紹介したいと思います。この旅行を通していくつかの大切な福音の原則を学ぶことができました。

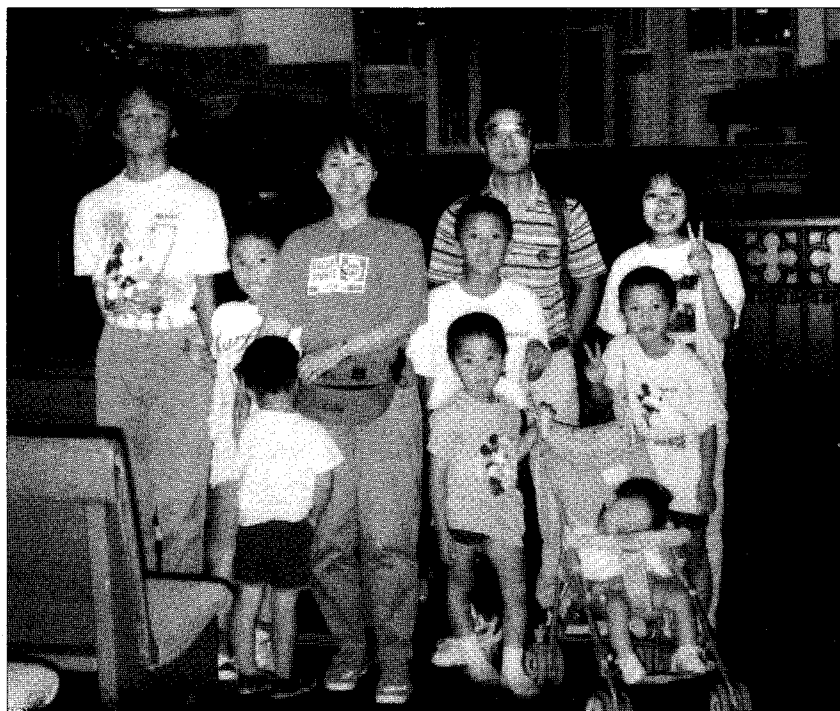
第1にアメリカの末日聖徒には、よき「伝統」があるということです。この地上に福音が回復されて160年以上たちますが、末日聖徒として、いく世代かを経ているアメリカの末日聖徒にとって福音の大切な原則のひとつである「あなたの隣り人を愛せよ」(マタイ22:39)というこの戒めが家族の伝統になっています。

第2に「家族を大切に」というこの基本となる教えを心から喜んで受け入れています。

第3に神権者である父親を中心に家族として一致しています。父親は家庭の中で権力を振るうのではなく、家族を来世に至るまでも幸福にするにはどうすればよいか常に考える存在でした。

彼らの生活を見ていますと福音の原則がとても自然に生活の中に溶け込んでいるように感じられます。

では私の家族にはどのような伝統があるのだろうと考えてみました。私は



京谷ご家族

「従順と奉仕」を伝統にしたいと考えています。福音はこの地上での幸福を約束しています。そればかりではなく来世での幸福までも約束されているのです。宣教師を通して福音を知り、教会員になって、24年間毎週教会に集わせていただきましたが、これほどの祝福はないのではないかと考えています。これまでさまざまな奇跡を目にすることができました。旅行中にあったエピソードをご紹介しますと思います。

今回のアメリカ旅行を通じて、25年前に私を改宗へと導いてくださった宣教師に、ぜひお会いしたいと思っていました。しかし住所がわかりません。名前を頼りに電話帳を調べてみますと、アメリカ人としてはよくある名前なのですが、不思議なことにその町にはひとりしかいませんでした。早速、友人に頼んで電話をしましたが、彼は私を覚えていませんでした。私にバプテスマを施してすぐに帰国されたので無理もないことかもしれません。彼はすぐに宣教師時代の日記やアルバムを開いて、当時の記憶をたどってくれました。そこには、私がバプテスマを受けた日の彼の証あかしが書かれていました。記憶がよみがえってきました。

そして、彼はすぐに奥さんと一緒に私を訪ねてくれたのです。彼は私を抱き締めて「教会にずっと集っているか」と聞きました。私は「毎週集っています」と答えました。次に「神殿で結び固めを受けたか」と言うので、うなずくと彼はより一層力を込めて私を抱き締め「良かった、良かった」と何度も繰り返していました。ここでも、すばらしい教会員にまた出会うことができました。

私は強い証があつてバプテスマを受けたわけではありません。むしろ、おもしろ半分て教会員になったようなところがありました。しかし教会に集い、聖典を学び、責任をできるかぎり頑張つて果たしていくことにより、神様は私に個人的に知恵をくださり、この大切な福音が真実であることを示してくださいました。多くの人が私たち家族に示してくださる「キリストの愛」に心から感謝しています。この教会は神様の教会です。私たちは文字どおり「神の子供」です。父なる神様とイエス・キリスト様はいつも私たちを見守ってくださいていることを証します。(きょうたに・たかし ステーク部第一副伝道部長)

信仰を表わした後に

—— 8年間、疑い続け、祈り求め続けた答えを受けました ——

大阪堺ステーク部河内長野ワード部
鈴木謙三

19歳で伝道に出、福岡伝道部で2年間専任宣教師として働き、帰還後1年過ぎた時に、東京神殿で結婚しました。小学校6年生を頭に4人の子供に恵まれ、12月14日には5番目の子供(三男)が生まれました。

私は教会員の家庭に生まれ、育ちました。8歳でバプテスマを受けましたが、そのバプテスマ会に向かう車の中で次のような会話がありました。「謙三、バプテスマ会で証を述べなくてはいいかいよ。」「証って何?」「神様は生きています、と言えいいんだよ。」私は、どうしてそんな当然のことを言わなければならないのか、理解できませんでした。

そのような私でしたが、10歳ころから「神様は本当に生きているのだろうか?」と思うようになりました。私は祈りの中で何度か、「神様は生きていますか?」と問いかけたように思います。しかし、答えを受けることはありませんでした。次第に私は両親や教会員が本当に証を得ているのか、疑いの目を持って言葉と行ないを観察するようになっていました。証会では強い疑念を持つと同時に、証を得た彼らをうらやむ思いもありました。

そのような私にひとつの転機を作ってくれたのは、セミナーです。初めの2年はほとんど参加もしなかったのですが、後半の2年は良い教師にも恵まれ、福音に対する知識が深まりました。そして、もしこの福音が真実であれば、きっとすばらしいに違いないと思うようになりました。しかし、確信にまでは至りませんでした。

その時、私には恐ろしい期日が迫っていました。伝道に出るように言われている年齢が目前に迫っていたのです。私は幼い時から、教会員の家庭の中で育ったのだから優等生でなければなら

ないという思いが強く、集会などで「伝道に出ますか?」という質問には、ずっと「ハイ」と答えていました。しかし、証のない私が伝道に出られるはずはありません。当時、証はありませんでしたが、この福音がもし真実であるならば、福音を宣べ伝えることはぜひとも必要なことであると思っていました。そこで、セミナーで学んだ聖句、ニューファイ第一書第3章7節とイテル書第12章6節に倣い、もし主が私にも伝道に出ることを望まれているなら、私にいちばん必要な証を必ず恵みたくもうに違いない、また、証は信仰を表わした後に得られるならば、まず証が得られると信じて伝道に出る決意を皆の前に表明しようと思いました。そこで1977年の春、1年後に伝道に出ることを公にしました。

それからは計画的な聖典の勉強、熱心な祈り、積極的な行動など、証が得られると思われるあらゆる努力をしました。しかし簡単には証を得ることはできませんでした。

夏には焦りの気持ちも出てきました。9月のころと思います。独身成人の代表より電話が入り、翌日に予定している結婚ファイヤサイドの企画から司会までの一切を依頼されました。私はあまりにも突然のことで、無理だと思えばかりなのですが、心の底からは「これは、主の命じたもうたこと、前もってある方法が備えてある、信仰を持って……」と響いてくる声があるのです。

そこで、引き受けることにし、熱心に祈り、準備に

取りかかりました。しかし、何も思い浮かばず、数時間がたちました。時計が12時を回ったところのことです。私の心は突然にあふれるばかりの思いで満たされ、みたまを強く感じました。そして、なすべきすべてのことが明らかになりました。涙があふれ、主が実に生きてもうことをはっきりと知りました。主はこの小さな私を覚えてくださり、心に留めてくださっていたのです。

この経験の後、しばらくしてモルモン経を読んでいる時にみたまを強く感じ、心が燃える思いに包まれ、この書物が確かに真実の神のみ言葉であることも知りました。これは私が8年間、疑いながらも、祈り求め続けた答えだったのです。これらの証を携えて、19歳の3月福岡伝道部に召されました。

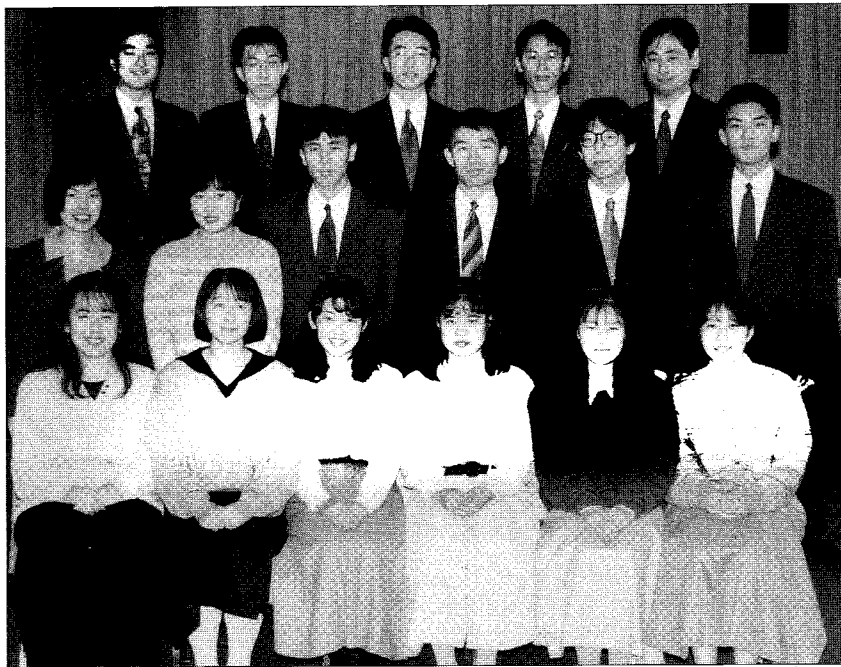
あれから17年たちましたが、私にとってこの経験は大きな「つえ」となり私をどれだけ支えてきたことでしょう。今では、さらに多くの証が付け加えられ福音の喜びを家族皆で味わっています。私は福音に、また主の深い愛に心から感謝しています。(すずき・けんぞう 大阪堺ステーク部高等評議員)



鈴木ご家族

1月に召された専任宣教師

第173期生 17人



後列左から1-5, 中列左から6-11, 前列左から12-17

(名前)	(出身地)	(伝道地)
1. 遠藤 慎	横浜S/横浜第2W	札幌伝道部
2. 千葉直幸	札幌S/旭川第2W	名古屋伝道部
3. 早川勝久	仙台S/青葉W	札幌伝道部
4. 古内秀樹	仙台S/青葉W	札幌伝道部
5. 斉藤武尊	京都S/大津W	岡山伝道部
6. 滝口真由美	仙台S/山形W	名古屋伝道部
7. 石田秀実	広島S/安古市B	札幌伝道部
8. 辻岡隆	名古屋S/岡崎W	岡山伝道部
9. 窪田成行	東京北M/長野D/諏訪B	札幌伝道部
10. 大槻陽剛	東京西S/国立W	札幌伝道部
11. 志茂剛	BYU-H 1st S/13th W	名古屋伝道部
12. 石井ゆか	名古屋M/福井D/福井第2B	東京南伝道部
13. 大川素子	札幌西S/手稲W	東京南伝道部
14. 足田祥子	岡山S/岡山西W	神戸伝道部
15. 村瀬博美	名古屋西S/大垣B	東京南伝道部
16. 川北真理	我孫子S/松戸W	札幌伝道部
17. 福井由美子	東京S/所沢W	札幌伝道部

M:伝道部, S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

皆さんの原稿を
募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。以下のような証をお送りください。

- ①どのようないきさつで改宗したか。
- ②日々の生活に福音の原則をどのように応用しているか。またそれによってどのような祝福があったか。
- ③教会員として職場でどのような努力をしているか。また、信仰をどのように生かしているか。
- ④友人や周囲の人にどのように福音を伝えているか。
- ⑤伝道に出るに当たりどのように準備し、障害を克服したか。また、専任宣教師になって得た証。
- ⑥神殿参入や家族の記録を作成するに当たってどのような助けや祝福があったか。
- ⑦家庭の夕べの紹介。
- ⑧その他。(家族の証、各地の行事、ワード部/支部特集など)

▶現在ローカルページでは証の著者の生年を記載していませんが、編集作業の参考のため、投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を記入し、写真を同封のうえお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただきますことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

▶あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

電話03(3440)2666

ファクシミリ03(3440)3275

たまもの 聖霊の賜

イエスがバプテスマの水から上がられると、聖霊がはどのように下られ、イエスの上に光を降り注がれました。(欽定訳マタイ3:16参照)真理、純潔、平和の象徴であるはとの美しい姿は、私たちに聖霊の賜の祝福を思い起こさせてくれます。バプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となる人はだれでも、按手によりこのすばらしい賜を授かります。



ILLUSTRATED BY KRISTY MORRIS

聖霊は福音が真実であることを 証するお方である

聖霊は慰め主、導き手、教師、そして証し人です。聖霊の力を通して、私たちは「一切の事の真実であるかどうか……解る」のです。(モロナイ10:5)また、聖霊の力によって、私たちはイエス・キリストの証を授かります。「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」のです。(1コリント12:3)

聖霊は聖典や予言者が真実であるという確信を与えてくださいます。スペインのカディスに住むフローリ・コボ・デ・ランブレラス姉妹は、モルモン経を読んでいた時のことをこう述べています。「この本が真実であるか、またジョセフ・スミスが本当に予言者であったか、そして神様が私にこの教会へ入ることを望んでいらっしゃるかを、神に尋ねたいという強い願いを感じました。

4、5時間、私は眠れずに布団の中

で寝返りを打っていました。そしてついに、ベッドのわきにひざまずき、声に出して天父に祈り始めました。すると、心の中に強い確信を覚え、答えを受けました。本当に大きな喜びと平安を感じ、温かい気持ちに包まれました。」

●聖霊はあなたにどのような真理を証していただきましたか。

●聖霊とともにいるとき、あなたはどのように感じますか。

聖霊を絶えず伴侶とすることができる

アルマは痛烈な言葉で私たちにこう尋ねています。「私の兄弟諸君よ、あなたたちにもしも心を改めたことと、^{あがな}贖いを与える愛を讚美する歌を唱いたと思ったことがあるならば、今もそう思えるか私はたずねたい。」(アルマ5:26)私たちは聖霊を伴侶とするために絶えず努力をしなければなりません。聖霊がともにいてくださるかどう

かは、私たちの正しさにかかっています。つまり、聖霊は私たちが謙遜、忠実、従順であるときにのみ影響をお与えになることができるのです。私たちは「静かな細い声」を聞くことができるように、戒めを守る努力をする必要があります。

何年も教会に来ていなかったパム姉妹は、自分の生活を改め、心に重くのしかかっている過去の罪を悔い改めようと毎日必死に取り組んでいるうちに、このことが真実であるとわかりました。そして、聖霊を伴侶とすることができるようになると、今までより大きな目的を持って祈り、主の戒めを守ることができるようになりました。彼女の信仰、希望、悔い改めのゆえに、聖霊は彼女に影響を及ぼしました。彼女の人生は変わり、ついには神殿で祝福を受けるまでになったのです。

聖霊を伴侶とすると、私たちの心は喜びと平安に満たされます。「どうか、望みの神が、信仰から来るあらゆる喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを、望みにあふれさせて下さるように。」(ローマ15:13)私たちが聖霊を伴侶とするにふさわしくなろうと努力し、そのささやきに従うなら、導き、支え、慰め、確認を受けることができます。

●日々の生活の中で、聖霊の影響を感じられなくなるのは、どのようなときですか。

●再び聖霊を伴侶とするためには、どうしたらよいでしょうか。□

スペンサー・ W・キンボール 不屈の人



ペトリーア・ケリー

1972年春、十二使徒定員会会長代理を務めていたスペンサー・W・キンボール長老の病状は非常に重く、喉頭癌が再発し、動脈の閉塞と心臓弁の機能不全のために心臓も危険な状態にありました。当時77歳でした。放射線治療のおかげで癌の進行は止められ、医師団からは心臓の手術を勧められましたが、それは複雑な外科手術であり、成功する確率はわずかでした。

医師団、そして大管長会のハロルド・B・リー長老との話し合いの中で、キンボール長老は疲れた様子でこう言いました。「私ももう年です。いつ死んでもおかしくありません。」彼は自分の年でこれ以上長生きするために懸命に病と戦う必要があるのか、もう時が来たのではないかと考えていました。リー副管長はそんな彼に力を込めて言いました。「スペンサー、君は召されているんだよ。死ぬはずがないじゃな

いか。体のためにできることは何でもして、生き続けなければ。」

キンボール長老は、あきらめて死に甘んじたりはしませんでした。課せられたものがどんなに困難であろうとも、決してあきらめなかったのです。

変遷の時

手術が施され、成功しました。彼が回復に向かっている間に、ジョセフ・フィールドディング・スミス大管長が亡くなりました。その18カ月後、ハロルド・B・リー大管長も世を去り、スペンサー・W・キンボールが第12代大管長となりました。彼の年齢とそれまでの健康状態から、ほとんどの人は彼の大管長としての務めは短い「暫定的」な期間になるだろうと思いました。しかし実際は、活気と奇跡に満ちた期間となったのでした。それから12年間、

ニール・A・マックスウェル長老の言葉によれば「人々は、〔キンボール大管長が〕いつも次の峰にいて、教会がそれに追いつくのを待っていてくださるように感じていました。にこやかにほほえみかけて手招きしながらも、私たちが『あともう少し速く』前進することを望んでいらっしやったのです。」

彼は伝道の大切さについて教え、私たちに「歩みを速める」ようにチャレンジしました。こう語っています。「私は、主が『すべての国民』『すべての国』『地の果て』『すべての舌』『すべての人々』『すべての霊』『全世界』

ある晩、14歳のスペンサーは灯油ランプに火をともし、創世記の初めの数章を読んだ。1年後、彼は「その大いなるすばらしい本のすべての章を読み終えて」聖書を閉じた。



『多くの国々』という言葉の口を口にされたとき、意味があってそれらを使われたように思います。」そして私たちに、圧制を強いる政府の指導者の心が和らげられ、宣教師の入国を許可するようにと勧めました。宣教師の数は倍増し、300万人近くの人々が教会に入りました。彼が世を去る時に存在したステーキ部の60パーセントは、彼の在任中に組織されたものでした。

彼は神殿活動の大切さも強調しました。神殿の数は15から37に増え、それに加えて建設が発表されたもの、建設中のものもいくつかありました。

キンボール大管長は、家族が教会の基本的な単位として大切であることを説きました。こうして家族の時間を増やすために日曜日の集会の新たなスケジュールが導入されました。

また、新しい英語の賛美歌集が出され、それを基に多くの言語で出版されました。

彼は聖典学習の大切さも教えました。そして、より多くの参照聖句とさらに改良された項目別索引の付いた改訂版の標準聖典が出版され、会員は個人として、また家族として聖典を研究するように勧められました。ふたつの啓示が聖典に加えられました。ひとつはジョセフ・スミスに与えられた日の光栄

の王国に関する示現であり、もうひとつはジョセフ・F・スミス大管長に与えられた死者の贖い^{あがな}に関する示現です。

七十人第一定員会が正式に組織され、規模が拡大されました。世界じゅうで急速に発展する教会の責任を担うため、より多くの教会幹部が必要になったからです。定員会には6つの国々からの兄弟たちが召されました。キンボール大管長を含むすべての教会幹部は世界じゅうを駆け巡り、6つの大陸の多くの都市で地域大会が開かれました。

しかし、おそらく最も素晴らしいことは、1978年の6月に起きた出来事でしょう。この時主は、すべての人種のふさわしい男性に神権を授ける時が来たことを啓示されたのでした。(公式の宣言2〔英文〕参照)

彼はささやき、私たちは耳を澄ます

よい教師ならだれでも知っていることですが、生徒の注意を引くにはささやくのが一番です。キンボール大管長の話す声もささやくようでしたが、それはそうしかつたからではなく、癌のために声帯の大部分を切除してしまつたからでした。私たちは彼の靈感に満ちた勧告に熱心に耳を傾けました。

「私は自分が神と密接な関係になく

なつたと感じる時、また自分の祈りが神の耳に達せず、神のみ声が聞こえないように思われるとき、一生懸命に聖典を読みます。すると、その距離は縮まり、霊性が回復してきます。」

「自分の土地でできるかぎりの食物を育ててください。」

「自分の家や農場をきれいに整えていただきたいと思います。……自分の所有物を美しく保ってください。」

「だれもが日記をつけるべきです。それはだれにでもできることです。」

「聖徒たちは試練を通して忍耐、堅忍、自制を学ぶことができます。」

「利己心を忍び込ませないなら、結婚生活はうまくいくものです。」

「国民全体が心をひとつにして祈る姿は、人に畏怖の念を抱かせます。その力強さは、原子爆弾の爆発にも勝ります。」

「心の平安は、無尽蔵の財産からではなく朽ちることのない信仰から生まれます。」

「私は、イエス・キリストが生ける神の御子であり、世の人の罪のために十字架にかけられたことを知っています。このお方は私の友であり、救い主、主、神なのです。」



キンボール大管長は人々に対する大きな愛をもって、罪によって霊的に弱くなってしまった人や逆境に苦しむ人々の相談に乗ることに、長い時間を費やした。

備えの時

確かに主は、まさにこの時のためにスペンサー・W・キンボール長老を備えてこられ、彼の持つ独自の才能をご存じであり、多くの試練を通して彼が成長する姿を見守っていらっしゃいました。そしてこのように活気に満ち大きく成長を遂げる時期にあつて、キンボール長老こそ教会を導いていける人物であることを知っておられたのでし

た。

彼は1895年3月28日、ソルトレークシディーでアンドリュー・キンボール、オーブ・ウーリー・キンボール夫妻の6番目の子供として生まれました。彼が3歳の時、父親はアリゾナ州南東部のセントジョセフステーク部のステーク部長に召され、家族は南に向けて4日間旅をし、移り住みました。

スペンサーはヒーラ溪谷ですくすくと成長していきましたが、同時に悲しみも経験しました。まだ11歳の時、母親を亡くしたのです。また姉妹のうち4人も世を去りました。

第一次世界大戦によって大学へ進む望みはくじかれてしまいましたが、中部諸州伝道部で伝道し、その後、教師をしていたカミラ・アイリング姉妹と

結婚しました。彼らの間には息子3人と娘ひとりが生まれました。彼は自営の保険事業を設立し、地域においても活発に活動し、教会の責任においては音楽指導者、ステーク部書記、またステーク部長など、数多くの召しを果たしました。

報われた不屈の精神

若いころの彼の逸話は、その特質や能力について多くを語ってくれます。キンボール長老が14歳の時のこと、ある集会で話し手が聖書を読み通したことがある人はどのくらいいるかと尋ねたことがありました。彼は自分が手を挙げられないことを悔みに思いました。その時のことを次のように記していま

す。「その日の夜、私は1ブロックほど離れた家に戻り、家のてっぺんにある自分の屋根裏部屋に上がって、小さな机の上の灯油ランプに火をともした。それから、創世記の初めの数章を読んだ。1年後、私はその大いなるすばらしい本のすべての章を読み終えて、聖書を閉じた。」

彼は父の農場で熱心に根気よく働くことを学びました。決してすぐに音を上げる子供ではありませんでした。1943年に十二使徒定員会に召された時、キンボール長老は衝撃を受け、当惑し、へりくだる思いでいっぱいになりました。1943年10月、使徒になって初めての大いなる総大会の説教の中で彼はこう証しています。

「創世記の中にヤコブは祝福を得るために『夜明けまで』一晩中組み打ちしたと書いてあったのを思い出しました。私は皆様に申しあげたいと思います。私は85日、毎晩祝福を受けるために組み打ちしました。85回、私は助けたまえ、強くならしめたまえ、訪れ来たこの大いなる責任にふさわしい者とならしめたまえと主に祈るひびに黎明の光がさすのを見ました。」

1978年6月に発表された啓示もまた、彼の堅忍さを表わしています。「私たちは、これらの忠実な兄弟たちのため

に長い間、熱心に主に願ってまいりました。何時間もの間、神殿の一室で主に導きを願い求めました。

その結果、主は私たちの祈りを聞き届けてくださいました。長い間待ち焦がれていた約束の日が訪れたことを主は啓示によって私たちに確認してくださいました。すなわち、教会の忠実で資格ある男性会員はすべて、聖なる神権を……受けることができる日が訪れたのです。」(教義と聖約〔英文〕公式の宣言2)

おそらくスペンサー・W・キンボールの忍耐力と不屈の精神こそ、この大いなる祝福を主から受けるに必要な特質だったのでしょう。

「私は人々を愛しています」

キンボール長老が十二使徒定員会に召されて間もないころ、軍人の集会で話したことがありました。キンボール長老はその中で謙遜に、なぜそのような召しをいただいたのか不思議に思うと語りました。しかし彼は続けてこう言いました。「主がなぜ私を召されたのか私にはわかりません。でも私には主に捧げることのできるひとつの才能があります。私は父からどのように働くべきかを学びました。もし主がよく

働く者をお望みなら、私はその期待にこたえることができます。」

彼の熱心さ、根気強く働き続けること、そして自分のモットーである「実行」を実際に行なう姿は多くの人に語り継がれていきました。しかし彼の人生で常に目を引いたのは、人々に対する大きな愛でした。彼は実際、よく「私は人々を愛しています」と口に出して語っていました。

キンボール長老はレーマン人に特別な愛を抱いていました。彼の祝福師の祝福には「あなたは多くの民に福音を宣べ伝えるであろう。特に、レーマン人に伝えるであろう」と書かれていました。彼は、十二使徒定員会の一員としてインディアン伝道部を管轄する責任を受け、後には、合衆国南部諸州伝道部の責任を受けました。ジョージ・アルバート・スミス大管長は彼に、世界じゅうのインディアンのために力を尽くすようにという特別な責任を与えました。

彼の親切な行ないと思いやりの深さを表わす逸話は数多くあります。ある日、雪のために多くの飛行機の便が欠航になり、たくさんの人々が慌ただしい空港に足止めされました。2歳の子供を連れて若い母親が航空券を買うために並んでいました。子供は疲れ、お



キンボール大管長は多くの地を巡って地域大会を開き、神殿を奉献した。こうして人々は、世界じゅうに広がる霊的な安息の場にあつて、教会からの祝福を享受していった。その愛はあらゆる国民に向けられ、その愛ゆえに、すべてのふさわしい男性会員が神権を受けられるという啓示を願い求めた。

なかもすいていましたが、母親は妊娠しているためにその子を抱いてあげることもできませんでした。そのため床に座ってめそめそと泣く子供を足で押して前に進むしかなく、それを見た列の後ろに並んでいた人々からはぶつぶつと非難めいたことを言われ、彼女は自分も泣きたいような気持ちでいまし

た。

その時、ひとりの男性が近づいてきて、やさしくほほえむとこう言いました。「大変ですね。お助けしましょう。」彼は、子供を抱き上げてなだめ、チューインガムを与えました。ほかの人々に彼女の窮状について説明すると、彼らも彼女を列の前に行かせることに賛成してくれました。その男性は彼女が搭乗するまで助けてくれました。飛行機に乗ってから彼女は「なんてすばらしい方なのでしょう。名前さえ知らないというのに」と思いました。数日後、彼女は新聞にその人の写真が載っているのを見て、彼が末日聖徒イエス・キリスト教会のスベンサー・W・キンボール長老であることを知ったのでした。

また、これはキンボール長老が、南アメリカでステーク部大会に出席していた時の話です。ある監督からステーク部大会の間に、病院で危篤状態にある男性を祝福しに行ってほしいと頼まれたことがありました。ふたりは病院に駆けつけ、階段を駆け上り、廊下を走って行きました。部屋に入った時の様子を監督はこのように回想しています。「それまでと打って変わり、キンボール長老は世界じゅうの時間を独り占めしているかのように振り舞われました。」彼らはその男性と落ち着いて会話を交わし、儀式を執行し、そしてその場を去りました。ドアから出るやいなや、彼らはまた走って車に戻り、大急ぎで大会に戻ったのでした。

病気で入院している多くの人々が、

より重い病気を負って何度も入退院を繰り返していたスペンサー・W・キンボール大管長から祝福と慰めを受けました。キンボール長老はこう語ったことがあります。「私の人生は靴のようなものです。奉仕のために履き古されて一生を送るのです。」

彼は、罪のために靈的に弱くなってしまった人々や逆境に苦しむ人々の相談に乗るために、非常に多くの時間を費やしました。その中で人々と分かち合った悲しみや喜びがきっかけとなって、彼は「赦しの奇跡」や「奇跡に先駆ける信仰」を著わしました。この2冊の書物によって、さらに多くの教会員が感化され、鼓舞されました。

彼は決してあきらめない人でした

たとえスペンサー・W・キンボール長老が77歳でこの世を去っていたとしても、彼は宣教師として、夫として、また父親、実業家、ステーク書記、ステーク部長、また30年間を使徒として、偉大な人生を送った人だったとたたえられたことでしょう。病気のために受けた幾多の試練、親切な行ない、愛に満ちた知恵は彼の記念碑となったことでしょう。

しかし彼には、ほとんどの人が退職してゆっくりとくつろいで過ごす年齢にあつて、人がその身に受け得る最も大きなチャレンジが与えられたのでした。彼は予想もしなかったその召しを受け入れ、全力を尽くして果たしました。そして生者と死者両方の数多くの人々がその祝福にあずかることとなったのです。□

スペンサー・W・キンボール年表 1895—1985

年	年齢	出来事
1895		3月28日 ソルトレークシティで生まれる。
1898	3	家族とともにアリゾナ州サッチャーに移る。
1906	11	10月18日 母オリーブ・キンボール死去。
1914—16	19—21	合衆国中部諸州伝道部で伝道。
1917	22	11月16日 カミラ・アイリングと結婚。
1938	42	アリゾナ州マウント・グラハムステーク部のステーク部長に召される。
1943	48	10月7日 十二使徒定員会会員として支持を受ける。
1957	62	声帯の癌のため片方の声帯ともう片方の半分を切除する。
1962	74	著書「赦しの奇跡」を出版する。
1970	75	十二使徒定員会会長代理に召される。
1972	77	心臓切開手術を受ける。
		7月7日 十二使徒定員会会長に召される。
1973	78	12月30日 第12代大管長として任命され、聖任される。
1974	79	4月6日 大管長として支持を受ける。
1976	81	4月3日 聖徒たちが新たな啓示を聖典として受け入れる。
		10月2日 七十人第一定員会が組織される。
1977	82	福音を宣べ伝えるためにポーランドの地を奉獻する。(大管長としては初めて鉄のカーテンの向こう側を訪問したことになる)
1978	83	6月8日 すべてのふさわしい男性会員に神権が与えられるという啓示を発表する。
1979	84	末日聖徒イエス・キリスト教会による欽定訳聖書が出版される。
1980	85	3月2日 教会の集会時間が短縮される。
1981	86	末日聖典合本の新版が出版される。
1985	90	8月 新しい英語の賛美歌が出版される。
		11月5日 ソルトレークシティにて死去。

参考文献

1. エドワード・L・キンボール「スペンサー・W・キンボール」『教会の大管長』レナード・J・アリントン編
2. エドワード・L・キンボール「スペンサー・W・キンボール」『モルモニズム百科事典』第4巻, pp. 785—789
3. 「スペンサー・W・キンボール」『神の王国を出て行かせたまえ——教会歴史用資料』
4. 「エンサイン」1985年12月号, pp. 8—41



天父からの祝福

アマンダ・ミーンズ

監督と私は、こぢんまりとした監督室のいすに腰掛けました。監督が眼鏡越しに私を見詰めてこう言います。「祝福師の祝福は、天父からの祝福のようなものです。人生を歩んでいくにつれ、少しずつ祝福の意味がわかるようになるでしょう。」

小さな木のいすから立ち上がり、監督と握手を交わしました。監督は祝福師の祝福の推薦状を手渡してくれました。私はお礼を言って部屋を出ました。

このところ、いろいろな疑問について考えてきました。天父は本当に私のことを愛してくださっているのだろうか。天父は本当に私のことをご存じなのだろうか。ただ単にご自分の娘のひとりだからという理由ではなく、私がどんな人物かを個人的にご存じであり、そのうえで私を愛してくださっているのだろうか。

これらの疑問に対する答えを思いつくかぎり考えてみました。「神様が皆さんを愛しておられるのは、あなたたちが神の娘だからです。」これまで若い女性のクラスで教師の姉妹たちからそのように教わってきました。

「皆さんは神の子供です。だから、特別な存在なのよ。それを心に感じてください。」初等協会の教師たちもそのように教えてくれました。

それらのことが真実であるのはわかっていました。天

父が私を愛しておられることも、自分が神の子であることも知っていました。しかし天父は、すべての子らの中から私を見分けることができるのでしょうか。私の徳や人格のゆえに私を愛してくださったのでしょうか。

母の車に乗せてもらって教会堂に着くと、祝福師の待つ小さな部屋へと急ぎました。祝福師はにこやかで、やさしい目をした年配の人でした。

彼は祝福師の祝福について、またその神聖さについて手短かに復習してくれました。それから私の頭に手を置いて、天父のみこころを語り始めたのです。

私は一語一語に注意深く耳を傾けました。みたまを強く感じ、涙を抑えることができませんでした。私の心が求めていた答えを受けたのです。「天父はあなたをよくご存じであり、あなたを愛しておいでになります。」また祝福師の兄弟は、天父のみがご存じである事柄についてもいくつか伝えてくれました。私は天父の愛と深い思いやりに包まれたように感じました。

今私は、天父が私を愛してくださり、私をご存じであることを知っています。それは皆さん一人一人についても言えることです。あなたがどのような人物か知ったうえであなたを愛してくださっているのです。□



出エジプト

あかし
その試練と証と予型の考察

S・ケント・ブラウン

エジプトでの奴隷の境遇からイスラエルの民を救い出すようにモーセが神に召された時、モーセには神がヘブル人の奴隷のためにどれほどのことをなさるのか、まったく想像できなかったでしょう。ヘブル人を救出するために主は、エジプト人だけを襲う疫病を送り、死の天使から守り、紅海を分けて奇跡的に逃れさせ、砂漠では水とマナを与えられました。そして最終的には、シナイ山で偉大な啓示を授けられたのです。出エジプトはイスラエルの民に、主が誠実なお方であり、彼らが確かに主の民であることを示す

ものでした。

出エジプトは、贖罪の犠牲以前に神がイスラエルの民になされたことの中で、間違いなく最も記念すべきもののひとつでしょう。その時に示された

左——エジプトのルクソルにあるカルナク神殿の巨大な円柱に彫られた古代の彫刻。下——ギザにそそり立つ偉大なピラミッドのひとつ。エジプトでイスラエルの民は、神の力と栄光の前には人の栄光は色あせて見えることを目の当たりにした。



PHOTOGRAPHY BY FLOYD HOLDMAN

神の大いなる力と高潔な愛は、神がその民を確かに救い出し、助けてくださることを証明し、後のキリストの贖罪を示唆するものでした。イスラエルとモルモン経中の予言者や指導者、教師たちは、キリストの贖罪の力を通して、神が物理的にも霊的にも確実にその民を救われるという信仰を強めるために、たびたび出エジプトに言及しています。そして、さまざまな時代の主の民が、程度の差こそあれ、全能の神への信仰によって迫害者の手から救われることで、同じような教訓が繰り返し得られました。

出エジプトとイスラエル

パロがモーセの最初の嘆願を拒否するや、直ちに3つのことが起こりました。まず、パロは奴隷の作業量を増やしました。(出エジプト5：6—19参照)次に、その結果としてヘブル人たちはモーセとアロンに不平を言います。(出エジプト5：20—21参照)そして最後にモーセ自身も急に、主が本当に約束されたことを実行して下さるのかと疑いだすのです。(出エジプト5：22—23参照)

この時点で神は、イスラエルの民の進んできた道が正しいことをモーセに納得させていらっしやいます。主はこの大事業を指揮しているのがご自身であるだけでなく、「わたしは主である。……わたしの契約を思い出した。……

わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。……わたしは……その地にあなたがたをはいらせ」という主の約束に、ヘブル人は絶対の信頼を置いてよいことを明確にされました。(出エジプト6：1—8)

ご自身を一人称で呼ばれることで、主はこの一連の出来事がご自身の手によるものであり、イスラエルの民の福利を、当時も将来も、守り続けることを強調されました。パロが先祖伝来の合意を破ったことから、イスラエルの民は人と人の定めたものは信頼するに足りないことをすでに知っていました。(出エジプト5：14—16参照)そこで主は、主こそ唯一頼れるお方であることを民が納得できるように、さまざまな奇跡を起こされたのです。

このように、あぶの異常発生をはじめ、エジプトを見舞った疫病や凶事は、奴隷のイスラエル人とエジプト人を明らかに区別していました。(出エジプト8：23；9：4—7参照)主に命じられた簡単なことを行なうだけでイスラエルの民が死の天使の手から逃れることができ、それによって主の力の偉大さは劇的に示されました。(出エジプト12：3—30参照)それ以上に劇的だったのは、後にパロの戦車隊が追いかけて来て、人々の主への信頼が揺らいだ時、主がイスラエルの民に守護天使と「雲の柱」を送ってその全能ぶりを眼前に示された出来事でした。(出

エジプト14：8—20参照)

最終的にイスラエルの民は、紅海を渡って救われました。それによって、主が自然をも支配していらっしやることが明らかになりました。(出エジプト14：15—16, 21—31参照)これらの大いなる力を目の前に見て、ヘブル人は少なくとも一時的には、主を信じました。「それで民は主を恐れ、主とそのしもべモーセとを信じた。」(出エジプト14：31)また砂漠で水と食糧がなくなるとすぐに、イスラエルの民の芽生えたばかりの信仰はたちまち揺らぎ始めますが、主は飢えた民に水とマナ、うずらを送り、ご自身が彼らを守る力を持ち、守り続けるご意志のあることを示されました。

主は、ご自身が契約を守る神であることを証明して、かつて奴隷の身にあったこの民と契約を結ぶ用意をされました。それはシナイ山で交わされました。それから1世代後にイスラエルの民が約束の地へ入ろうとするその前夜、モーセはシナイ山での出来事を次のように語りました。

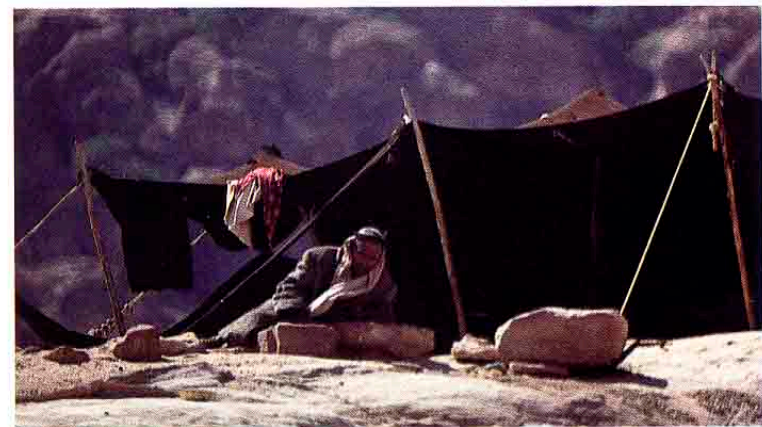
「火の中から語られる神の声をあなたが聞いたように、聞いてなお生きていた民がかつてあったであろうか。……あなたにこの事を示したのは、主こそ神であって、ほかに神のないことを知らせるためであった。」(申命4：33, 35)

出エジプトにまつわるこれらとそのほかの経験は、その後何世代にもわた

ってイスラエルの民と主の関係を示す象徴の中心となってきました。過ぎ越しの祭りは、イスラエルの民のために神がなされた行ないを絶えることなく記念するものとして、その役割を果たしてきました。当時も今も、人はまるでこの出来事がたった今起こったかのように、みずからがエジプトから導き出された世代であるかのように、この祭りに参加するのです。

以上に加えて、神がエジプトでイスラエルのためになされた数々のみ業の中から、信仰を表わすための礎となる3つの聖句が唱和されます。申命記第6章では、両親は子供に神の律法を教えるだけでなく、神に命じられた定めと律法は何のためかと子供から尋ねられたら、「われわれはエジプトでパロの奴隷であったが、主は強い手をもって、われわれをエジプトから導き出された」(21節)という意味の答えをしなければならないと教えています。また、イスラエル人が地の実の初物を主に捧げるときにも、同様のことを言わなければなりません(申命26:5-9参照)

ヨシュアは死を間近に迎えた時、イスラエルの民を奴隷の身から導き出した神の偉大な力を思い起こしてシケムで儀式を執り行ない、後の儀式のひな形としました。(ヨシュア24:2-14参照)エジプトからの脱出は明らかにイスラエルの民の心に深い刻印を残し、代々消されることなく受け継がれてい



上から——ナイルの川岸で羊の世話を
する。出エジプトの推定される道のり。
主の力をもってモーセが分けた紅海。
現代の遊牧民、ベドウィン族。荒れ野
をさまよっていた時、イスラエルの民
はこれとよく似た生活をしていた。

ったのです。

出エジプトとモルモン経

イスラエルの民と同様、モルモン経の民にとっても出エジプトは神の権能と愛の明確な証明としてとらえられていました。それにより、何代にもわたって希望と信仰、自信が鼓舞されたのです。ニーファイは、イエス・キリストのみ名を通してのみ救いが可能であるという自分の証をその記録を読む者に納得させるため、出エジプトを取り上げました。みずからの厳粛な宣言が確実であることを示すために、そうしたので。「主なる神はイスラエル人をエジプトから導き出したまい、またもろもろの民が毒蛇にかまれたときに、……これをすぐに癒す能力をモーセに与えた……もうた。……私が今言ったイエス・キリストのほか、人間に救いを与えることのできる名は断じて天下にないこともまた確実である。」(II ニーファイ25:20)

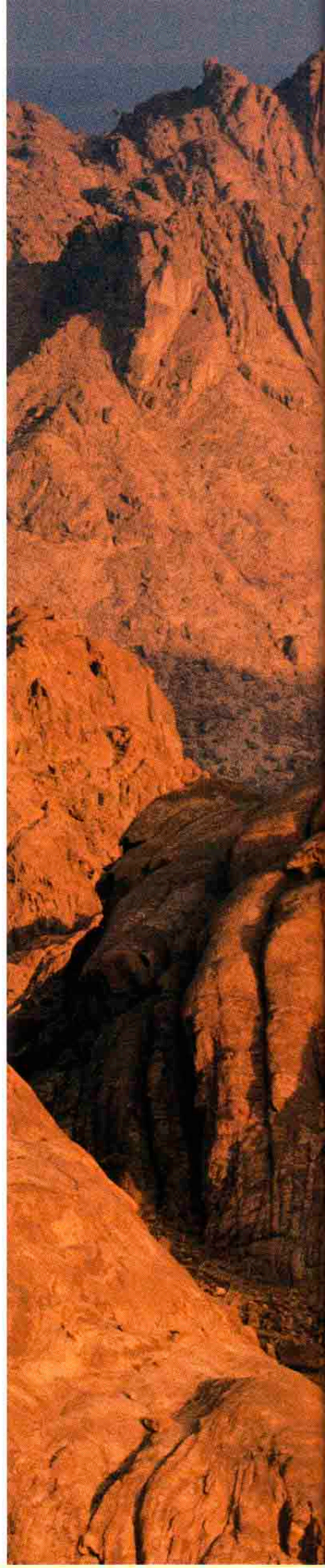
主が確かに父リーハイを約束の地に導かれるということを反抗的な兄弟に証明したいと望んだニーファイは、約束を実行する神の力の最高の証明として出エジプト時のさまざまな出来事に言及しています。(I ニーファイ17:23-42参照)ヒラマンの息子のニーファイも、「ガデアントンの秘密結社に属する判事ら」の議論にこたえる時、神の予言の言葉が必ず実現する主要な

証拠として出エジプトを引用しました。(ヒラマン8:1, 11-13参照)

同様に、奴隷の境遇にあったモルモン経の民が救いを求めて神に祈った時も、囚われの身のイスラエルの民が祈った言葉を引用しています。ニーファイ人の先祖の地に住もうとしてゼニフの指揮の下にゼラヘムラの地を出た移民団の中にも、そのような事例が2回ありました。彼らはレーマン人の圧力を受けて、努力のいかなく望みをかなえることができなかったのです。

このうち最初に主に嘆願したグループは、初代アルマの指導の下にノア王から逃れて結局ヒールラムの地に移り住んだ450人でした。(モーサヤ23:1-20参照)最終的にこの人々は捕らえられて奴隷になり、主に救いを求めました。(モーサヤ23:21-24:25参照)第2のグループはリムハイ主の民で、武器を取って何度も反乱を繰り返しますが、レーマン人の奴隷の境遇から逃れることのできなかった人々です。(モーサヤ21:2-13参照)彼らは敗北の後、「切に神に祈り……その難儀な境涯から救いたもうように祈った」のでした。(モーサヤ21:14)

右——シナイ山頂上からの眺め。シナイ山で神はモーセに語り、十戒を与えられた。イスラエルの民はシナイに1年間野営し、持ち運びできる幕屋を造った。下——頂上に至る道辺で。







どちらの場合も、神にはその民を救い出す力があり、確かに救われるという確信の根拠として出エジプトが使われました。リムハイは「イスラエル人をエジプトの国から導き出し」た「神を信じてこれにすがれ」（モーサヤ7：19）と民に懇願しています。

けれども囚われの身にあったこのふた組の人々にとって、出エジプトは単なる神の力を証明する以上の効果がありました。自由への逃亡の型を示すものとなったのです。どちらの場合も、古代イスラエルでなされたように、主は諸事を支配し、逃亡の道を開いてくださいました。たとえば、疫病を送ってパロの心を和らげたように、レーマン人の心も和らげられました。（モーサヤ21：15；23：29参照）そしてついには「家畜の群れ」などの財産を携えて逃れるという快挙も成し遂げることができたのでした。（モーサヤ22：10—11；23：1；24：18参照）

モーサヤ王は次のようにこのふたつのグループの救出を要約しています。「かれらを造りたもうた全智の造り主の助けを受けなかったならば、かならず今日まで奴隷の境涯に止まっていたにちがいない。しかし……かれらが大きいにその造り主に嘆願をしたから、造り主はかれらを奴隷の境涯から救い出したもうた。」（モーサヤ29：19—20）リムハイの民とアルマのグループがともに、出エジプトを自身の経験の模範としてとらえていたことは明らかです。

それは、古代イスラエルの民を救い出されたように、主は必ず自分たちも助けてくださるという勇気を与えてくれたのです。

出エジプトと贖罪

キリストの贖罪の後には、イエスに従う者にとってはそれが信仰と希望のおもな象徴となりました。そのため、出エジプトの全体的な重要性は減少しました。モルモン経の著者のうち贖罪以前の時代の多くの予言者は、出エジプトにまつわる言葉や描写を用いてその影響をより正確に描写しようとしています。

たとえば、モルモン経の予言者ヤコブは出エジプトを描写する言葉を多用した長い説教の中で、まだ起きていない贖罪について、その効果を「救出」や「逃亡」にたとえています。また、注釈者たちの中で別名「第2の出エジプト」と呼ばれる、末日のイスラエルの集合について述べたイザヤの言葉も、引用しています。そしてこの集合を通じてメシヤはその民を「また再び元にかえ復そうとし始めたもう」のです。（II ニーフアイ6：14）

出エジプトにまつわる語彙を用いて、ヤコブは次のように贖罪について述べています。

「私たちがこの恐ろしい怪物につかまれないように、一つの道を備えて下さる私たちの神の恵みはいかにも大き

いではないか。……その恐ろしい怪物とは死と地獄とで……ある。しかしイスラエルの聖者である私たちの神が救いの道を立てたもうたから、私が今言った肉体の死である墓は一時的のものであって、やがてその中にある死体を解き放つ。」（II ニーフアイ9：10—11、下線付加。イザヤ50—52も参照）

息子アルマもまた、贖罪と出エジプトとを結びつけています。息子のヒラマンに自分の改宗談を語った折に、「神は……死から私を救いたもうた。それであるから、私は今も神を信じて頼っている。神はこれからも私を救って下さるにちがいない」と明言しています。さらにアルマは神が「先祖をエルサレムの地から導いて、今になるまでその永遠につきぬ力を以て、たびたび先祖を奴隷と束縛の境涯から救い出したもうた」と主を賛美しています。（アルマ36：27，29，下線付加）

ヤコブとアルマは、出エジプトと贖罪は同じような方法で神の全能を示すものであると考えていました。出エジプトがパロの下での奴隷の境涯からの物理的な救出であったと同様に、贖罪は罪の奴隷からの霊的な救出の道を備えてくれたからです。

出エジプトにまつわる語彙を使い、メシヤによるイスラエルの集合を予言したイザヤの言葉は、ニーフアイ第三書で救い主ご自身により引用されています。その例として、「シオンの囚われたる娘よ、汝の首にまとえる縄を解

シナイ半島の不毛で過酷な状況の中で、神はその民にキリストの贖罪の力により、物理的な救いだけでなく霊的な救いをももたらす力を示された。

け」という、明らかにヘブル人の奴隷の身に言及する言葉が挙げられます。(Ⅲニーフアイ20:37;イザヤ52:2参照)主は「わが民はさきにエジプトへ下って行って、かしこに寄留した」と、ヤコブの家族のエジプトへの移住に言及していらっしやいます。(イザヤ52:4)また「去れよ、去れよ、そこを出て、汚れた物にさわらな」という命令は、荒れ野に逃げたイスラエルの民を思い出させます。(イザヤ52:11;Ⅲニーフアイ20:41参照)「あなたがたは急いで出るに及ばない、また、とんで行くにも及ばない。主はあなたがたの前に行き、イスラエルの神はあなたがたのしんがりとなられるからだ」と、意識的に出エジプトの出来事と順序を逆にして、思い起こす聖句もあります。(イザヤ52:12;Ⅲニーフアイ20:42も参照)

出エジプトと福音の回復

神の恵み深い力の最高の証明として、贖罪が出エジプトに取って代わりましたが、それでも主は民に確信をお与えになるため、引き続き出エジプトを想起させる描写をされます。ウインター・クォーターズで困窮する聖徒たちに、主は「汝の敵を怖るるなかれ。彼らはわが掌中^{しやうちゆう}にありて、われわが思のままに為せばなり」と言われました。(教義と聖約136:30)その証拠として主は「われは主なる汝らの神、すなわ

ち汝らの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神なればなり。われは、イスラエルの子らをエジプトの地より導き出したる者なり。わが腕は末の世にわがイスラエルの民を救わんために伸べられたり」と明言していらっしやいます。(教義と聖約136:21-22)

エレミヤは、末の日には「人々は『イスラエルの民をエジプトの地から導き出された主は生きておられる』とまた言わないで、

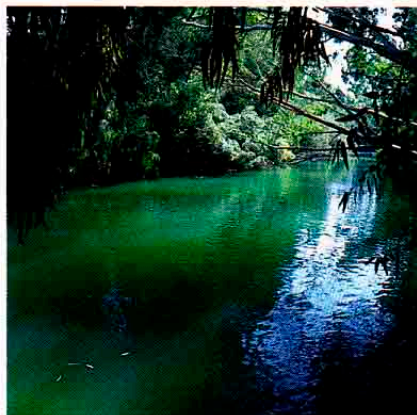
『イスラエルの家の子孫を北の地と、そのすべて追いやられた地から導き出された神は生きておられる』という日がくる。その時、彼らは自分の地に住んでいる」と予言しました。(エレミヤ23:7-8)

主はエレミヤを通じ、出エジプトにまつわる言葉を使いながら、イスラエルの民をエジプトの地から導き出されたように、これからも彼らを導き続けることを約束していらっしやるのです。

□

S・ケント・ブラウンはブリガム・ヤング大学の古代聖典学教授である。

下——ヨルダン川。かつて神の力によって水が分けられ、「すべてのイスラエルが、かわいた地を渡って行」った。(ヨシュア3:16-17)右——肥沃で豊かな実りをもたらす「乳と蜜の流れる」約束の地。(出エジプト3:8)





あなたが 教える番です

シェーン・バーカー

ライアン・ペリガは教室の前に出て行きながら、にやりとしました。ライアンは執事定員会の会長で、きょう、神権会のレッスンをする番なのです。

「きょうは、いつもとちょっと違うレッスンをします。」彼はこう切り出しました。「ジグソーパズルを持って来ました。アドバイザーのワーナー兄弟が、何分かパズルをする時間をくださいました。」

そう言ってパズルの箱を開けると、中身を床にばらまきました。ひざをついて見回すと、「さあ、

みんなやろう」と言いました。
みんなをせかす必要はありません。

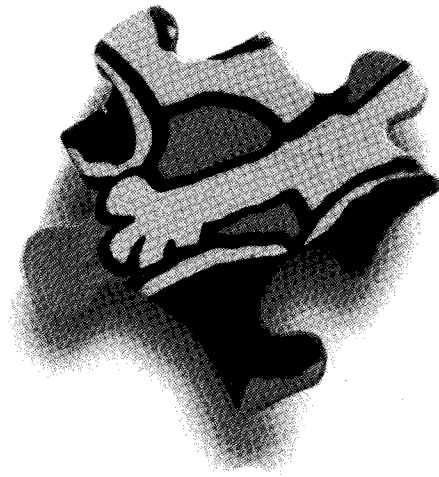
たとえ単純なジグソーパズルでも、生徒はいつでもやる気じゅうぶんの、典型的な執事の青少年だからです。

パズルのケースには対象年齢が3歳から4歳向きと書いてあります。大きなピースが30個余りしかなかったのも、あっという間に終わってしまいました。ところがちょうど真ん中の大きなピースが、ひとつだけありません。

「ひどいや。ひとつないぞ。」だれかが抗議しています。

「まあ、いいじゃないか。大したことないさ」と、ライアン。





「なに言ってるのさ。おかしいよ。」
まただれかが言います。

「なんで？」

「だって全部そろっていないんだもの。」

ライオンはわざとびっくりしたように、「それがそんなに大切なことかい。」

「もちろんさ。ピースが全部なければ、パズルは完成できないもの。」

ライオンはうなずきました。そして部屋の中のひとつだけ空いているいすを指差しました。「みんな気づいていると思うけど、ケ빈はしばらく神権会に出席していない。ある意味では、ぼくたちもまるでこのパズルと同じだと思います。全員そろっていません。ケ빈がいなければ定員会とは言えないんです。」

ライオンの伝えようとするものが、皆によくわかりました。彼のレッスンはわかりやすく、みんな本当によく理解できました。それから少しの時間、どうしたらケ빈に定員会に戻って来てもらえるか話し合いました。

教える場所が教室であれ、家庭であれ、よいレッスンをするために教会幹部になる必要のないことをライオンは証明してくれました。だれもが人の成長に役立ったり影響を与えるような考えやひらめき、体験を持っています。アドバイザーやセミナーの教師、両親、友達に、恐れずにアイデアを尋ねたり、知らないことを教えてもらったりしてください。大切なのは祈りの気持ちを持つことです。主の助けを求め、レッスンを準備し、発表するときに導きを受けるようにします。

以下によりレッスンをするためのア

イデアを、いくつか挙げてみました。

..... レッスンの準備

1. どのようにしたら、テーマと教えようとしている人たちの生活を関連づけられるか考えます。ライオンのレッスンは、定員会の意味を単に話しただけではなかったもので、効果的でした。具体的に自分たちの定員会を取り上げました。活発化についてただ説明したわけではありません。ケ빈を助けることについて話しました。それによって、定員会的一致ということが急に身近に感じられたのです。

2. 次に、レッスンに活気を与える方法を考えます。実物を使ったレッスン、活動、物語、話し合いなどを取り入れてください。全員が参加できるようにします。ライオンのレッスンがよい手本です。パズルに熱中している時は、自分たちのしていることにレッスンのテーマがあるとは思いませんでした。でも、全員がこの活動に加わっていました。

3. 準備は早めにします。土曜の晩に準備を始めて、日曜の朝に急によりレッスンを始めるはずがありません。できるだけ早くから事前に計画を立てます。資料やアイデアを集めて、それらをまとめます。

4. どのレッスンでも最後に、あなたが教えたことを実行に移すための具体的なアイデアを提案します。たとえば、奉仕について教えるなら、次の1週間に善い行ないをするようにチャレンジする準備をします。

..... レッスンの提示

1. 長い物語を読むのは避けます。たとえよい内容の話でも、音読するとたいていは印象が異なります。要約して自分の言葉で話ができるように準備しましょう。得られる教訓が同じなら、あなた自身の経験を紹介した方がもっとよいでしょう。

2. 「聖徒の道」からアイデアを探してください。「聖徒の道」には物語、個人の経験談、引用文などたくさん材料が見つかるでしょう。

3. 聖典を使う場合(これはどのレッスンにも必要なことです)は、参加者全員が聖典を持って来られるようにしてください。

4. 活動をしたり、実物を使うレッスンを取り入れたりする場合は、ふさわしいものを行なうようにします。集会の精神を妨げるような活動は避けてください。

5. 自分にできる最良のレッスンをしてください。自分で定期的に祈っていないければ、祈りの大切さを生徒に確信させることはできません。しかし、次のことは覚えていてください。教える事柄についてあなたが誠実に取り組んでいれば、完全にできている必要はありません。

6. あなた自身がレッスンを楽しみにしてください。教えようとしている事柄に自分でも強い興味を持てなければ、おそらくほかの人々も興味を持っていないでしょう。

7. 最後に、教えている原則について、自分の証を述べてください。□

ロシアの子供たちとのきずな

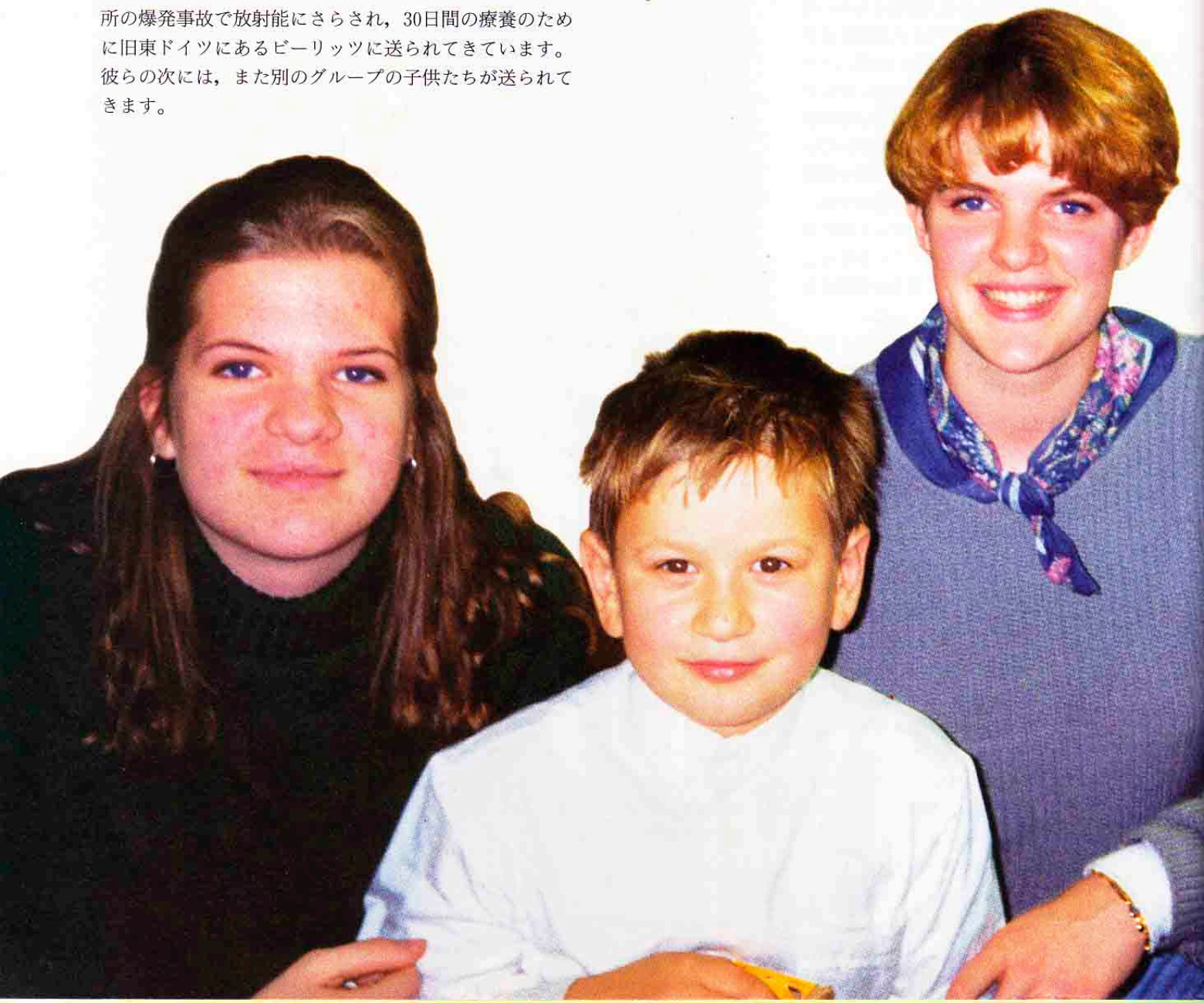
モーリーン・クレイトン

第二次大戦以前からあるロシア軍人病院と、表の大通りを結ぶ道を遮っていたゲートが、ロシア警護隊員の手で開けられました。少女たちと指導者を乗せた車が、そこを静かに通り抜けて行きます。彼女たちはこの奉仕計画に胸を躍らせてはいましたが、それが終わった今、これほど大きな感謝の気持ちに満たされるとは、だれも想像していませんでした。

ドイツ・ベルリンの軍人ワード部の若い女性たちが、32人のロシア人の子供たちと一緒に午後を過ごしてきたところです。この子供たちはチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故で放射能にさらされ、30日間の療養のために旧東ドイツにあるビーリッツに送られてきています。彼らの次には、また別のグループの子供たちが送られてきます。

少女たちは子供たちと一緒にフラフープで遊びました。パラシュートの上でゴムボールを弾ませるゲームをして遊んだり、笛がなる前に全部のボールを部屋の片方の隅からもう一方の隅へ移動させるゲームをしたりしました。帰る前に、少女たちは果物の入った袋やガム、ノートやペン、色鉛筆が3本入った小さなプレゼントを子供たち一人一人に手渡したのです。

いったん大通りに出ると、話声が静寂に取って代わりました。しかし、女の子たちのよくある明るいはしゃぎ



若い女性たちは、チェルノブイリ原子力発電所の爆発事故で、放射能にさらされたロシアの子供たちと午後を一緒に過ごしました。「言葉の壁は問題になりませんでした。心が通じるからです。」ひとりの若い女性はそう語ります。

左——ロシアの新しい友達、8歳のサーチャを挟んで、ジェシカとティナ・ドーニー。



PHOTOGRAPHY BY MAUREEN CLAYTON

声ではありません。落ち着いた語りでした。だれもが、この午後のひとときの経験に心が和んでいたのです。

彼女たちは病気で苦しむ子供たちを元気づけようとして訪問しました。ところが大変驚いたことに、逆に子供たちに励まされたのです。

子供たちは歌を歌い、ダンスも披露してくれました。しかも、シンデレラ劇まで見せてくれました。少女たちは子供たちの言葉はわかりませんでしたが、それが交流の妨げにはなりません。17歳のエリザベス・ファンズワースはこう語ります。「心が通じたので、言葉の壁は問

彼女たちは、病気で苦しむ子供たちを元気づけるために訪問したのです。ところが驚いたことに、逆に子供たちに励まされました。子供たちは歌を歌い、ダンスもしました。彼女たちのためにシンデレラの劇までしたのです。



題にはなりませんでした。」

子供たちは自分のプログラムが終わると、今度は若い女性たちに歌を歌ってくれるように頼みました。「立ち上がって、英語のわからない子供たちに『神の子です』を歌った時、涙が出ました」とエリザベスは語ります。「この歌は真実であり、たとえ国籍が違い、違った言葉話を話していても、私たちはすべて同じ天父の子供であり、主は私たち各自の必要をご存じであると感じました。主は神の子供たち一人一人を愛していらっしゃる。ここにいる子供たちは家族から離れて暮らしていて、自分たちが愛されているということを知る必要があるのです。」主はこの若い女性たちを通して愛を子供たちにお与えになりました。

「私は一生忘れられない教訓をひとつ学びました」と、17歳のティナ・ドーニーは言います。彼女は、サーチャという8歳の男の子と友達になりました。サーチャは若い女性が訪問している間、ずっとおもちゃの汽車に夢中でした。「わずかな間でしたが、サーチャは、与えられたほんのわずかなものの中にも満足を見いだすこと、お互いを忘れてしまうほどこの世の事柄にとらわれてはいけなことを、教えてくれたんです。」

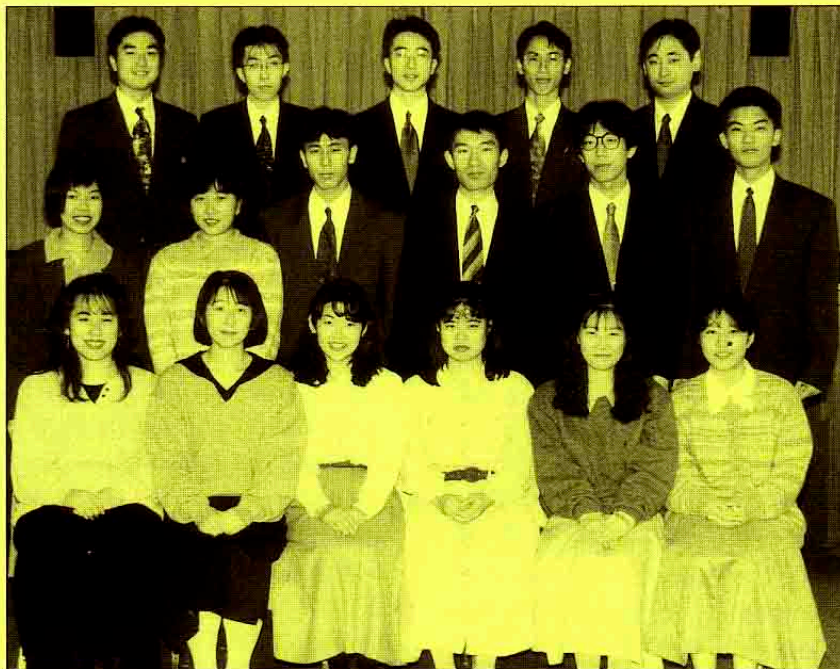
子供たちはばかりか医師や看護婦も彼女たちの訪問を大変喜び、もう一度来てほしいと言いました。そこで、翌週の金曜日にも訪問する計画を立てました。今度は果物、衣料品、ロシア語のモルモン経を持って行きました。この活動がとてもよい結果をもたらしたので、ステーキ部の若い女性は今でも続けてこのロシアの子供たちを毎月訪問しています。それは子供たちがビーリッツで治療を受け続けるかぎり、行なわれていくでしょう。

その日の午後、病院を後にした少女一人一人が何らかのみたまを感じました。「奉仕している間、かつて経験したことのないほど強いみたまを感じました」と言ったのはエリザベスだけではありません。

曲がり角を過ぎると、彼女たちの集会所が遠くに見えてきました。いつしか彼女たちは「主の恵み、人にも分かたん」(賛美歌138番)を歌い始めました。彼らは、その時、「お前たちが同胞のために務めるのは、ただお前たちの神のために務めるのである……」(モーサヤ2:17)というベンジャミン王の言葉の本当の意味が理解できたのです。□

1月に召された専任宣教師

第173期生 17人



後列左から1-5, 中列左から6-11, 前列左から12-17

(名 前)	(出身地)	(伝 道 地)
1. 遠藤 慎	横浜S/横浜第2W	札幌伝道部
2. 千葉 直幸	札幌S/旭川第2W	名古屋伝道部
3. 早川 勝久	仙台S/青葉W	札幌伝道部
4. 古内 秀樹	仙台S/青葉W	札幌伝道部
5. 斉藤 武尊	京都S/大津W	岡山伝道部
6. 滝口 真由美	仙台S/山形W	名古屋伝道部
7. 石田 秀美	広島S/安古市B	札幌伝道部
8. 辻岡 隆	名古屋S/岡崎W	岡山伝道部
9. 窪田 成行	東京北M/長野D/諏訪B	札幌伝道部
10. 大槻 陽	東京西S/国立W	札幌伝道部
11. 志茂 剛	BYU-H 1st S/13th W	名古屋伝道部
12. 石井 ゆかこ	名古屋M/福井D/福井第2B	東京南伝道部
13. 大川 素子	札幌西S/手稲W	東京南伝道部
14. 正田 祥子	岡山S/岡山西W	神戸伝道部
15. 村瀬 博美	名古屋西S/大垣B	東京南伝道部
16. 川北 真理	我孫子S/松戸W	札幌伝道部
17. 福井 由美子	東京S/所沢W	札幌伝道部

M: 伝道部, S: ステージ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。以下のような証をお送りください。

- ①どのようないきさつで改宗したか。
- ②日々の生活に福音の原則をどのように応用しているか。またそれによってどのような祝福があったか。
- ③教会員として職場でどのような努力をしているか。また、信仰をどのように生かしているか。
- ④友人や周囲の人にどのように福音を伝えているか。
- ⑤伝道に出るに当たりどのように準備し、障害を克服したか。また、専任宣教師になって得た証。
- ⑥神殿参入や家族の記録を作成するに当たってどのような助けや祝福があったか。
- ⑦家庭の夕べの紹介。
- ⑧その他。(家族の証、各地の行事、ワード部/支部特集など)

▶現在ローカルページでは証の著者の生年を記載していませんが、編集作業の参考のため、投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を記入し、写真を同封のうえお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

▶あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室
電話03(3440)2666
ファクシミリ03(3440)3275



「主はみ言葉をすべて成就される」 クラーク・ケリー・プライス画

「ノアは子らと、妻と、子らの妻たちと共に洪水を避けて箱舟にはいった。また清い獣と、清くない獣と、鳥と、地に這うすべてのものとの、雄と雌とが、二つずつノアのもとにきて、神がノアに命じられたように箱舟にはいった。」（創世7：7-9）



イタリアのローマに住む末日聖徒の生徒たちは、大変な苦勞をして土曜日の午後のセミナーに通い、教会員ではない友達の模範となっている。

(本誌「ローマに敷かれた正しい道」p. 10参照)